

資料3 岐阜県教育の現状と課題

- 資料3-1 魅力ある県立学校づくりの推進
- 資料3-2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組
- 資料3-3 多様なニーズのある児童生徒への支援
- 資料3-4 教員の資質向上と勤務環境の改革
- 資料3-5 教育行政推進のための環境の整備
- 資料3-6 教育委員会と知事部局が連携した教育の推進

資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進①

【保護者の意見】

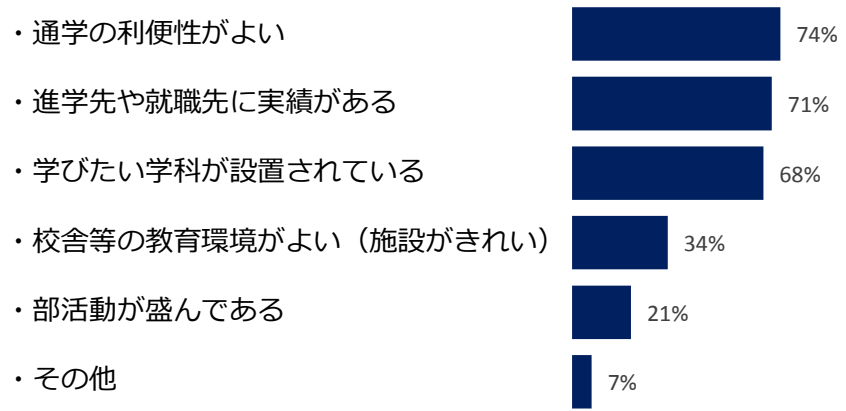
【現状と課題】

- 保護者が高校を選ぶ際に重視することは、通学の利便性であり、高校の立地条件、通学手段を確保していく必要がある。
- 高校で高めてほしいと思う力、高校に期待される特色は、いずれも就職を見据えたものが最も多くなっており、職業教育が充実される必要がある。

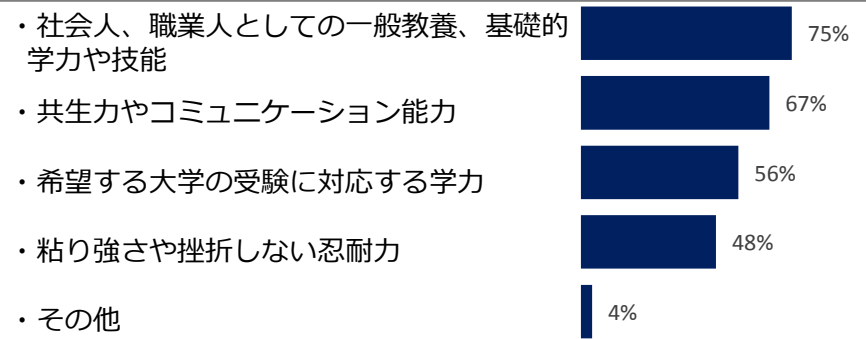
県立高校の魅力づくりに関するアンケート調査結果

- 調査方法
インターネットによる任意回答
- 調査対象
県内全ての国公立小学校3年生、6年生及び国公立中学校2年生の保護者
- 調査期間
平成28年9月27日～10月30日まで
- 回答数
5,712 (対象児童生徒総数56,450)

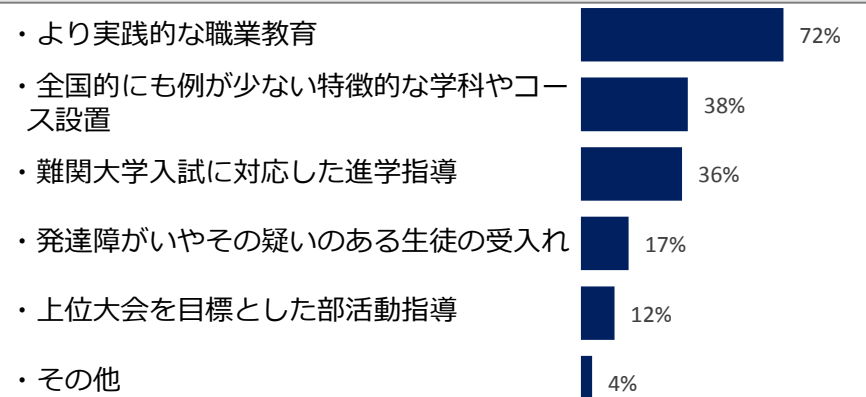
○子どもが高校を選ぶ際に、重視することは何か (※複数回答可)



○高校で高めてほしいと思う力はどのような力か (※複数回答可)



○県立高校が、特定の分野に重点を置いた特色を打ち出したら、どのような特色を持つ高校に期待するか (※複数回答可)

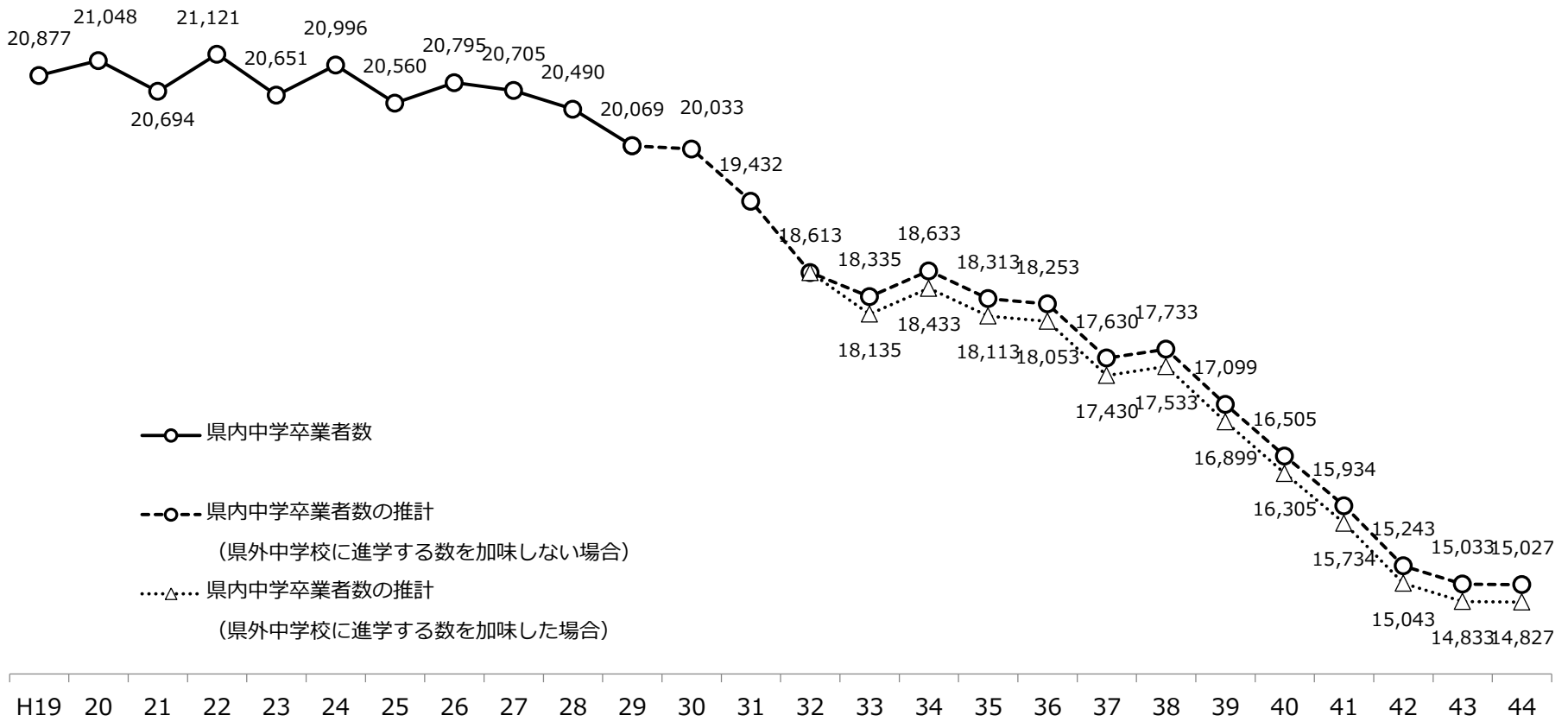


資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進②

【中学生卒業生数】

【現状と課題】
 ○ 今後はこれまでの10年間以上に生徒数減少が見込まれる中、その動向と志願状況の変化を見据えながら、効果的な学校配置及び教育内容の充実を図り、生徒のニーズに的確に対応した高等学校の体制整備が必要である。

県内中学校卒業生数の推移



【出典】 学校基本調査、H30以降は推計値

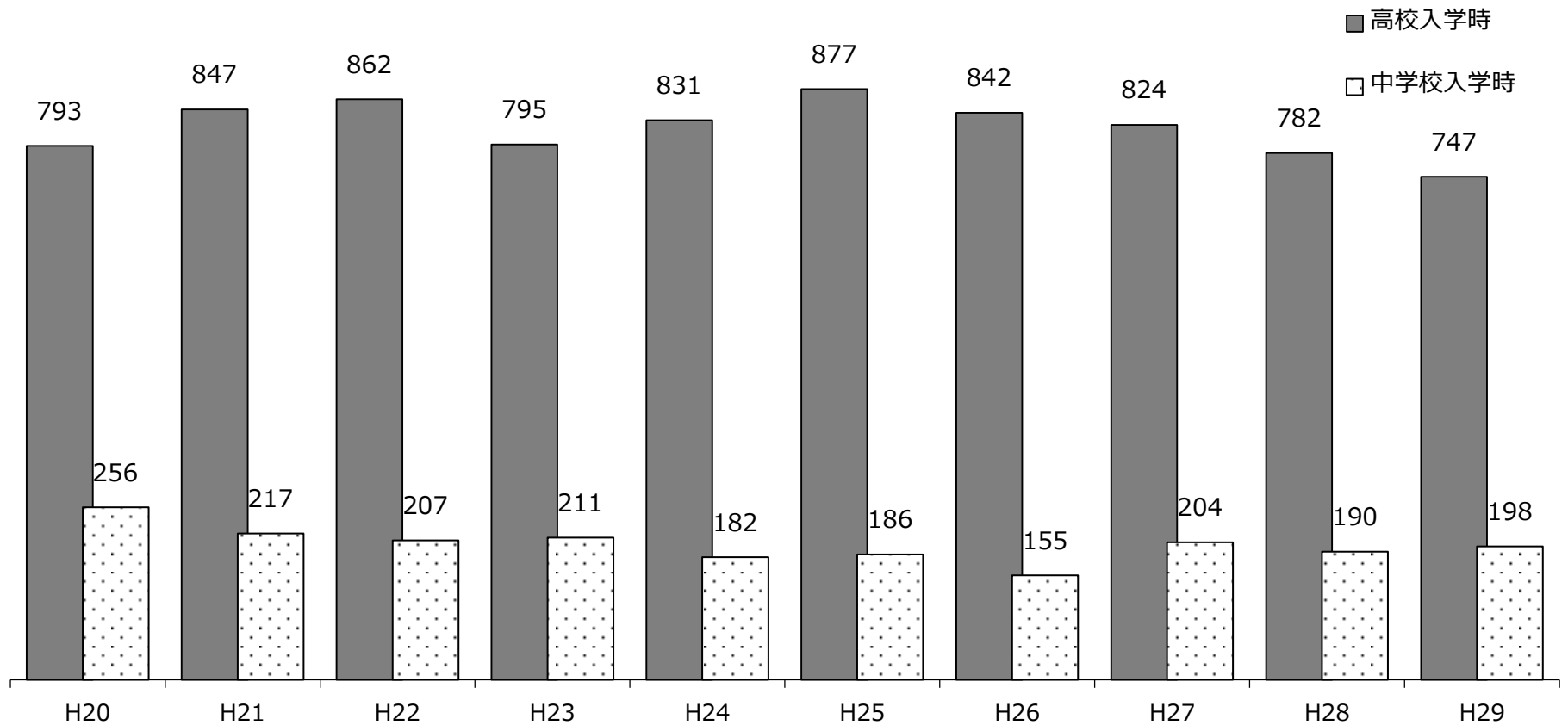
資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進③

【県外の学校への進学者数】

【現状と課題】

- 県外への進学率は中学校入学時で200名（約1%）程度で推移している。高校入学時には800名（約4%）程度であるが、近年は減少傾向にある。
- 県外への流出に歯止めをかける施策が必要である。

県外の学校への進学者数（人）



【出典】 県教育委員会調べ

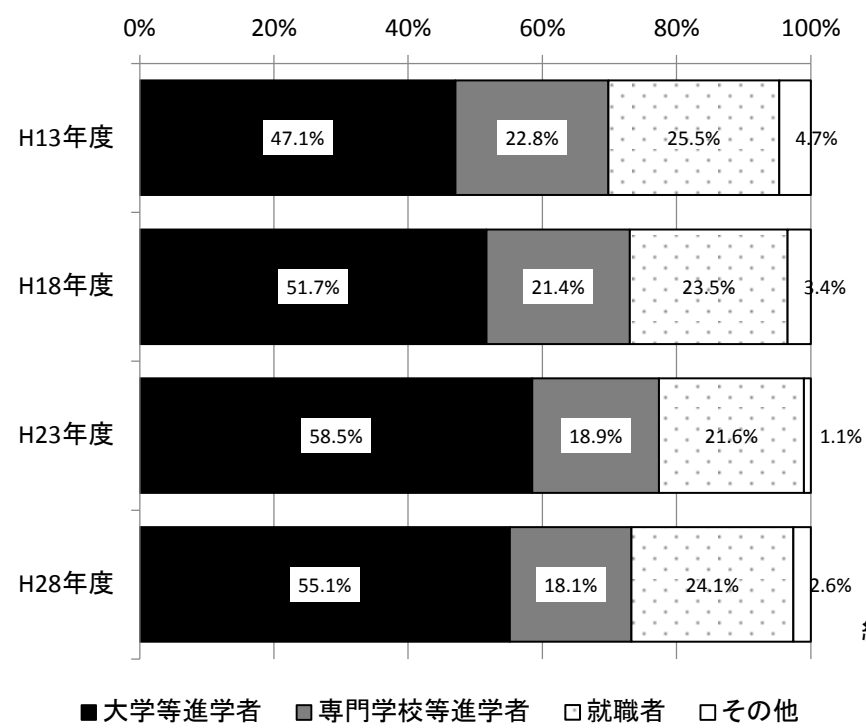
資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進④

【進学率・就職率】

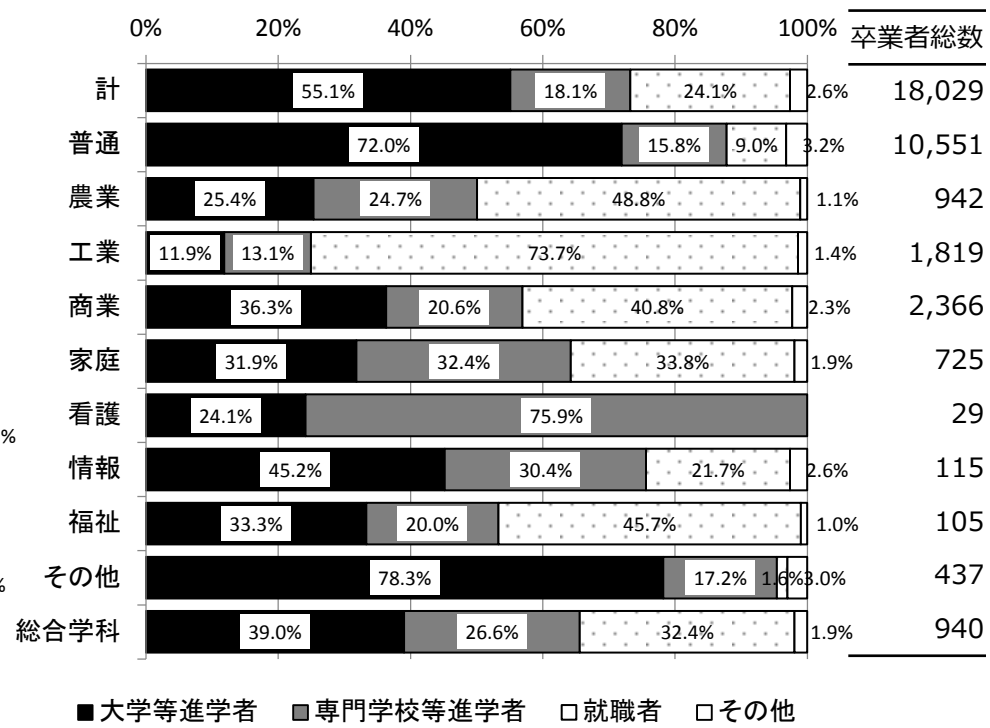
【現状と課題】

- 大学等進学者の増加は高止まり傾向、進路の詳細においては、「大学へ進学する生徒」「専門学校へ進学する生徒」「就職する生徒」と大きく3つに分かれており、それぞれの課題に対応していく必要がある。
- 普通科高校においても就職をする生徒が一定数あり、専門高校だけでなく普通科高校においても、社会的・職業的自立に向けて必要な能力の育成とその実現に向けた指導法の研究・体制の整備が必要である。

高等学校の進路別卒業生数の推移



高等学校の学科別・進路別卒業生数の推移 (H28年度卒)



※その他：衛生看護科、理数科、音楽科、美術科、英語科等

【出典】学校基本調査

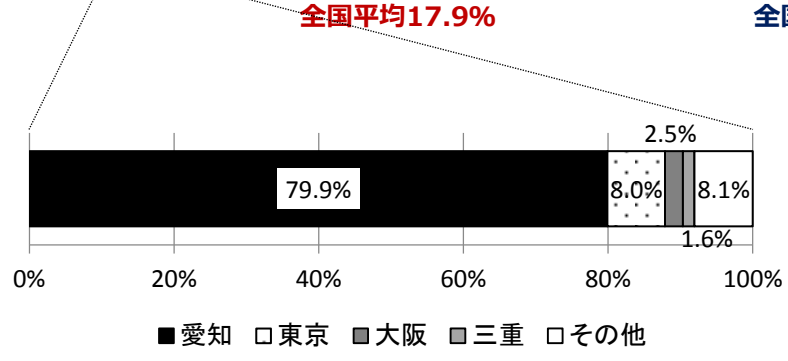
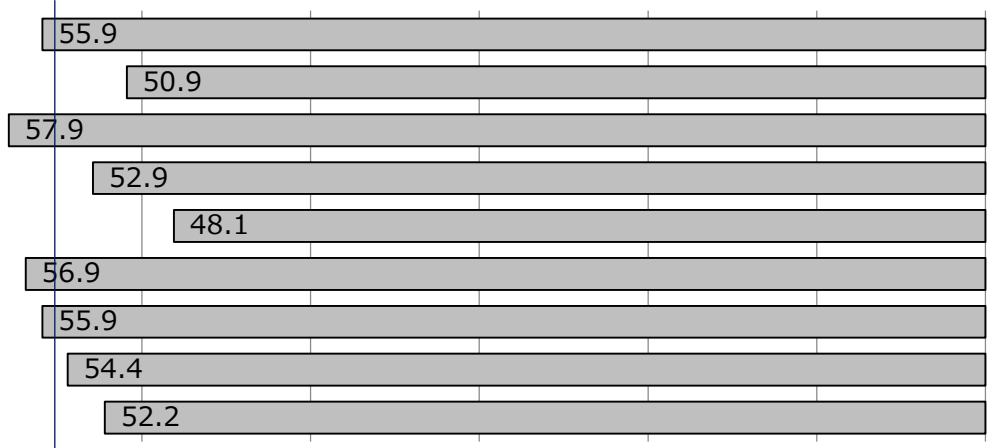
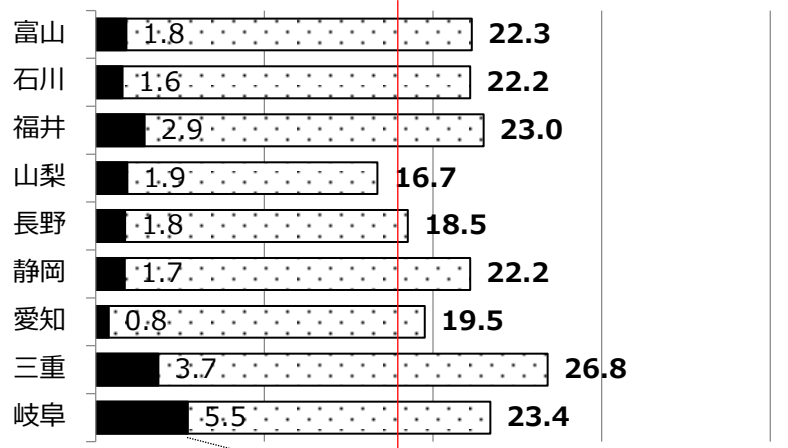
資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進⑤

【進学率・就職率】

【現状と課題】
 ○本県は、全国平均に比べ高校卒業時の就職者の割合が高く、県外就職者の割合も高い。
 ○地理的にも近い愛知県への就職率が多く、人材の流出に歯止めをかける施策が必要である。

高校の卒業者の就職状況(全国状況)<H29.3卒/高等学校/全日制・定時制>

□ 卒業者に占める就職者の割合(%) ■ 卒業者に対する県外就職者の割合(%) □ 大学等進学率(%)



H29.3卒業者の構成比率(推計) ※H26年1年生の学科別生徒数による

県	専門学科	総合学科	普通科
富山	29.8%	5.0%	65.2%
石川	20.9%	9.9%	69.2%
福井	29.8%	2.9%	67.4%
山梨	19.6%	11.4%	69.0%
長野	23.2%	5.3%	71.6%
静岡	26.8%	5.9%	67.3%
愛知	23.5%	3.7%	72.8%
三重	27.9%	6.1%	66.1%
岐阜	34.6%	5.1%	60.3%

■ 専門学科
 □ 総合学科
 □ 普通科

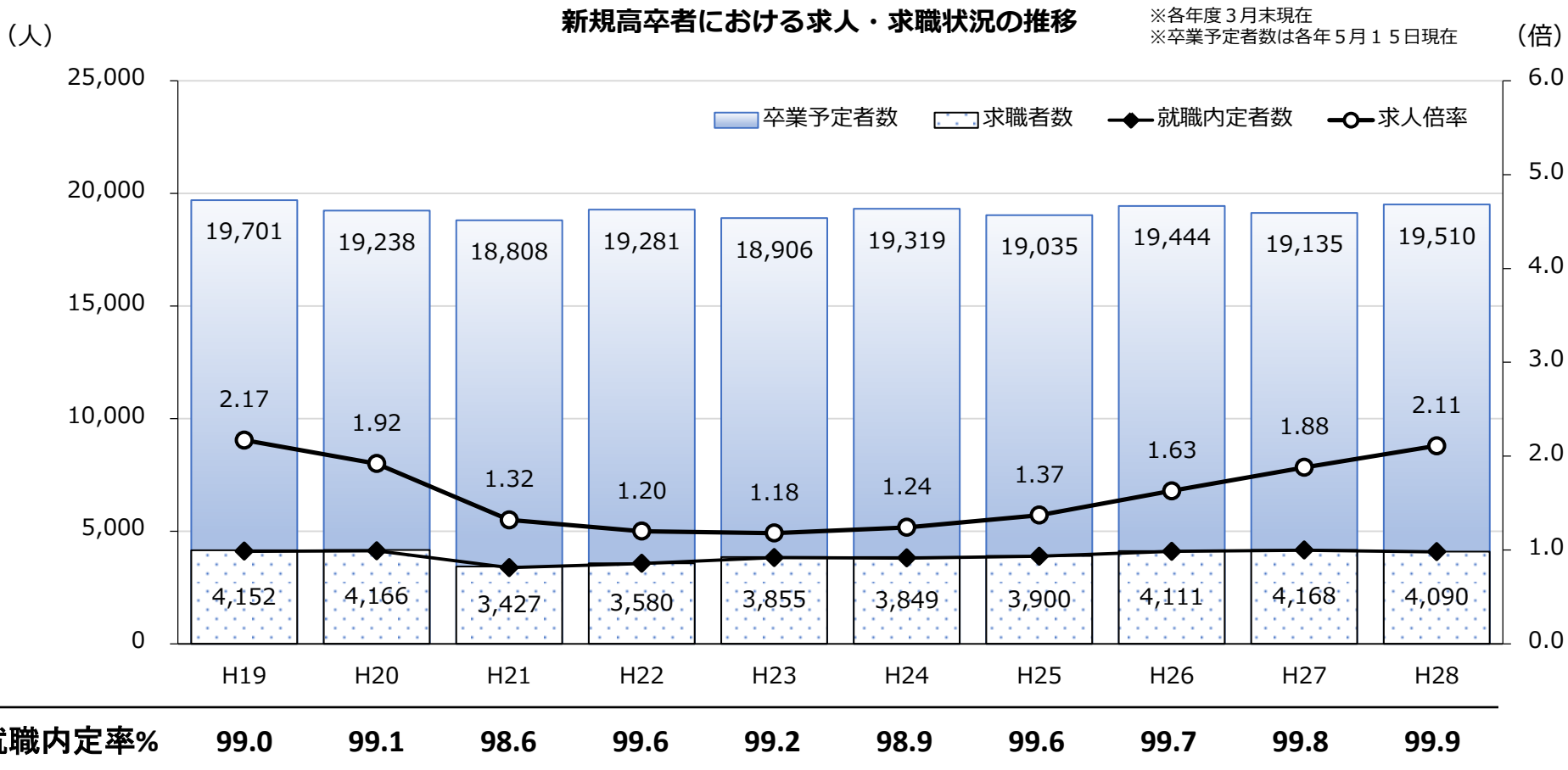
岐阜県の県外就職者の就職先 (H29.3卒)

資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進⑥

【就職状況】

【現状と課題】

- 県内の求職者は増加傾向。求職者の内定率はほぼ100%である。
- 今後も引き続き、生徒に合った就職指導を実施する必要がある。



【出典】岐阜労働局調べ

資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進⑦

【離職率】

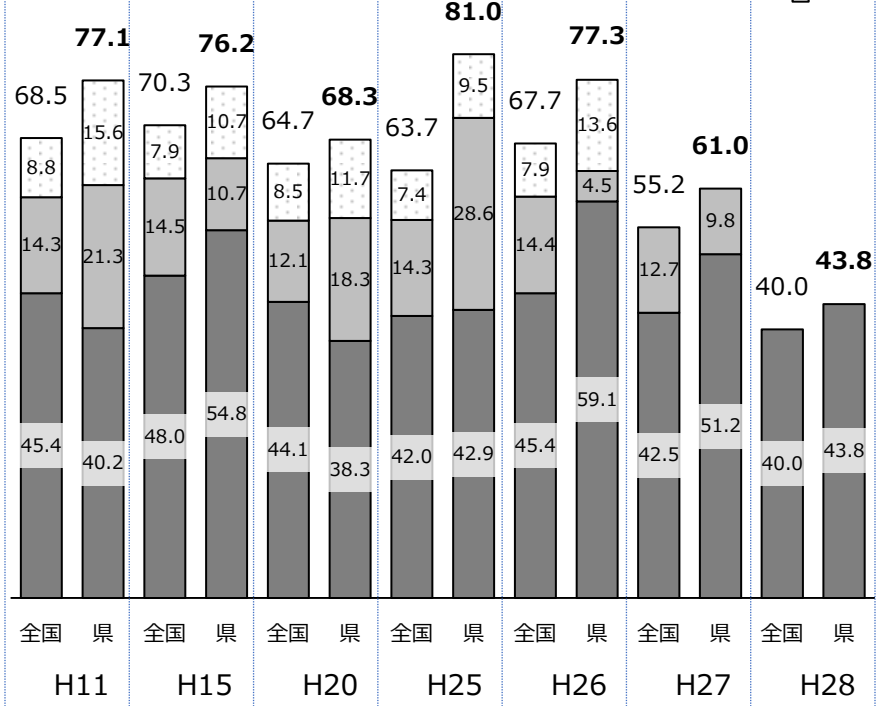
【現状と課題】

- 中学卒で約7割、高校卒で約4割が3年以内に離職している。全国に比べ中学卒は離職率が高く、高校卒は離職率は低い。
- 子どもたちが将来的に自立した社会人として、積極的に社会参画できるよう、望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒に合った就職指導を実施する必要がある。

就職後3年以内の離職率【全国・岐阜県】 (%)

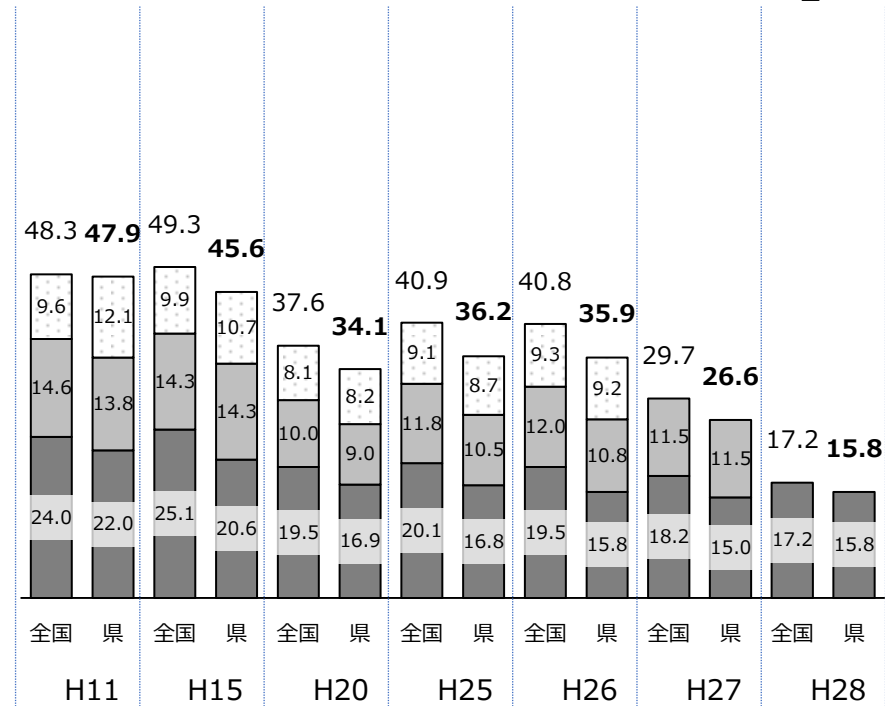
中学卒

■ 1年目
■ 2年目
□ 3年目



高校卒

■ 1年目
■ 2年目
□ 3年目



(注) ・事業所からハローワークに対して、新規学卒者として雇用保険の加入届が提出された新規被保険者資格取得者の生年月日、資格取得加入日等、資格取得理由から各学歴ごとに新規学校卒業者と推定される就職者数を算出し、更にその離職日から離職者数・離職率を算出している。
・3年目までの離職率は、四捨五入の関係で1年目、2年目、3年目の離職率の合計と一致しないことがある。

【現状と課題】

- 国公立大学合格者の割合は減少傾向。
- 選抜性の高い大学への進学が多い普通科においては1割程度、中堅進学校においては3割程度が推薦入試を活用している。
- 普通科において、学校の状況に応じた進学希望の実現に資する活性化策を講じる必要がある。

◆ 国公立大学合格者数の状況

<選抜性の高い大学への進学が多い普通科（11校）>

	国公立大学合計			東京大学			京都大学			名古屋大学			岐阜大学			難関大学		
	H20	H24	H29	H20	H24	H29	H20	H24	H29	H20	H24	H29	H20	H24	H29	H20	H24	H29
合計	1,901	1,793	1,827	25	21	21	55	45	48	206	205	172	326	338	359	414	381	344
割合	54.6%	52.0%	51.6%	0.7%	0.6%	0.6%	1.6%	1.3%	1.4%	5.9%	6.0%	4.9%	9.4%	9.8%	10.1%	11.9%	11.1%	9.7%

<いわゆる中堅進学校とされる普通科（14校）>

	国公立大学合計			名古屋大学			岐阜大学		
	H20	H24	H29	H20	H24	H29	H20	H24	H29
合計	613	527	484	19	19	7	138	88	50
割合	16.3%	14.0%	13.0%	0.5%	0.5%	0.2%	3.7%	2.3%	1.3%

※ 合計は過年度卒業者を含む合格者総数

※ 割合は卒業生数に占める割合

※ 難関大学：北海道、東北、東京、東工、一橋、名古屋、京都、大阪、神戸、九州の10校

◆ 国公立大学入学者における推薦・AO入試活用状況（H26.3～H28.3 3ヶ年平均）

<一般入試、推薦・AO入試別_国公立大学入学者割合（高等学校新規卒業生）>

	3ヶ年平均	
	一般	推薦・AO
選抜性の高い大学への進学が多い普通科	88.0%	12.0%
いわゆる中堅進学校とされる普通科	68.1%	31.9%

※割合は、新規高卒者の国公立大学入学者に占める割合
<県教育委員会調べ>

資料3 - 1 魅力ある県立学校づくりの推進⑧

【参考：岐阜高校の現状】

① 国公立大学合格状況

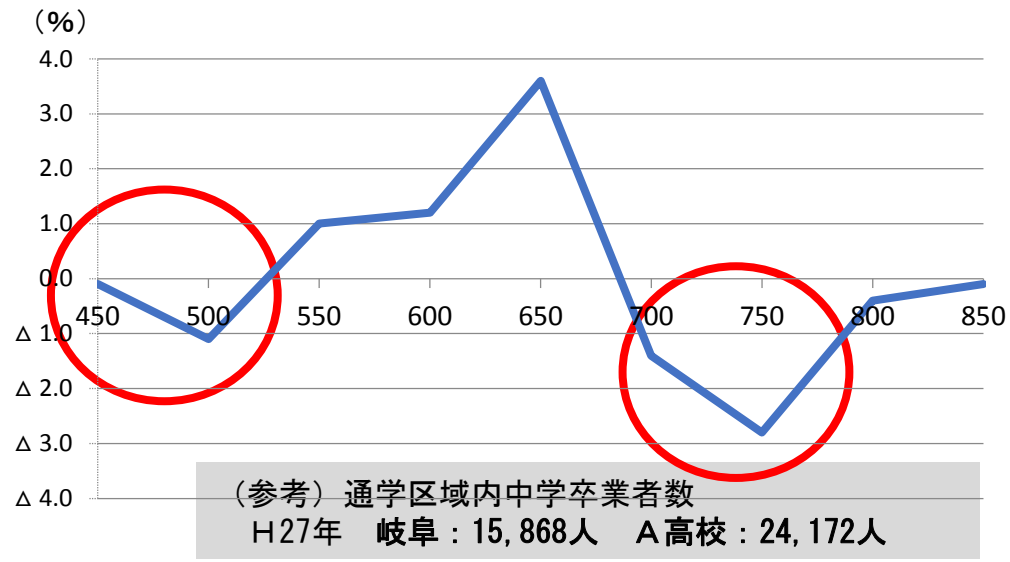
※合格者数は過年度卒を含む

	東京大学		京都大学		国公立 医学部医学科	
	H24.3	H29.3	H24.3	H29.3	H24.3	H29.3
岐阜高校	12	13	23	26	25	35
県内における選抜性の高い大学への進学が多い10校の計	9	8	22	22	32	24
近隣の某有力高校(以下、A高校)	27	20	20	23	21	21

県内進学校との比較では、突出した成果をあげている

② 大学入試センター試験におけるA高校との比較 (得点別人数構成比の差(岐阜-A高校) H27~H29平均)

③ 対外模試における文理別偏差値状況 (人数構成比H27~H29平均)



上位層の比率がやや低く、不振者層の比率もやや低い

国立文系希望	岐阜	A高校	差
受験者数	106人	114人	
偏差値60以上	49.9%	43.6%	+6.3%
偏差値50以上	93.8%	90.6%	+3.2%

国立理系希望	岐阜	A高校	差
受験者数	250人	231人	
偏差値60以上	35.5%	41.0%	△5.5%
偏差値50以上	85.6%	86.1%	△0.5%

文系上位者の比率が高く、理系上位者の比率が低い

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組①【学力①】

【現状と課題】

- 全国平均と比較して、小学校は低調、中学校は好調という傾向が続いている。
- B問題（活用問題）と比較して、A問題（知識問題）において課題が大きい。

全国学力・学習状況調査結果の経年変化（全国平均との差、括弧内は順位）

		H25	H26	H27	H28	H29
国語A	小	▲1.4 (34)	▲2.7 (43)	▲2.2 (45)	+0.1 (24)	▲0.8 (35)
	中	+0.7 (17)	+0.4 (19)	+0.6 (13)	+0.2 (24)	+1.6 (5)
国語B	小	▲0.3 (23)	▲0.7 (27)	+0.5 (22)	+1.0 (15)	+0.5 (15)
	中	+2.8 (5)	+1.0 (12)	+2.5 (4)	+2.6 (8)	+1.8 (6)
算数/ 数学A	小	▲1.0 (36)	▲1.2 (38)	▲1.4 (40)	▲0.4 (27)	▲1.6 (35)
	中	+2.9 (3)	+2.4 (7)	+1.3 (9)	+1.3 (14)	+1.4 (10)
算数/ 数学B	小	▲2.4 (39)	▲1.3 (35)	▲1.4 (34)	▲0.5 (26)	▲0.9 (28)
	中	+4.2 (3)	+1.5 (12)	+2.6 (6)	+2.1 (8)	+1.9 (5)

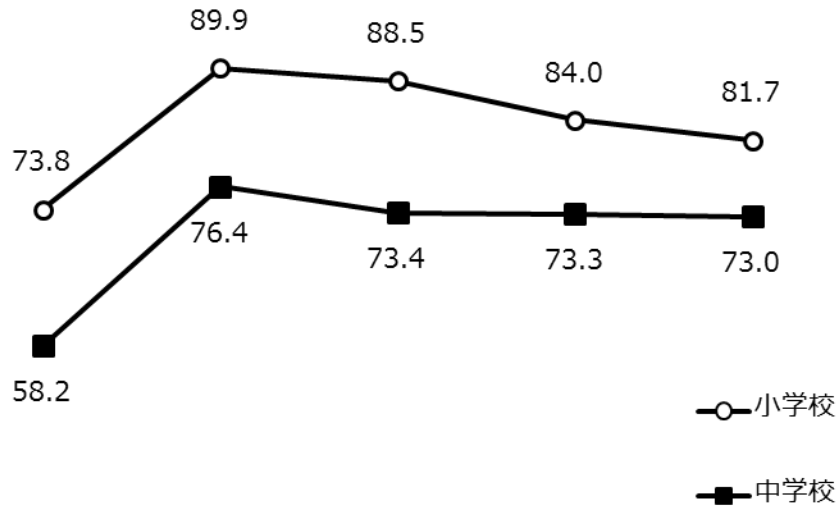
※H29の岐阜県の値は整数値

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組②【学力②】

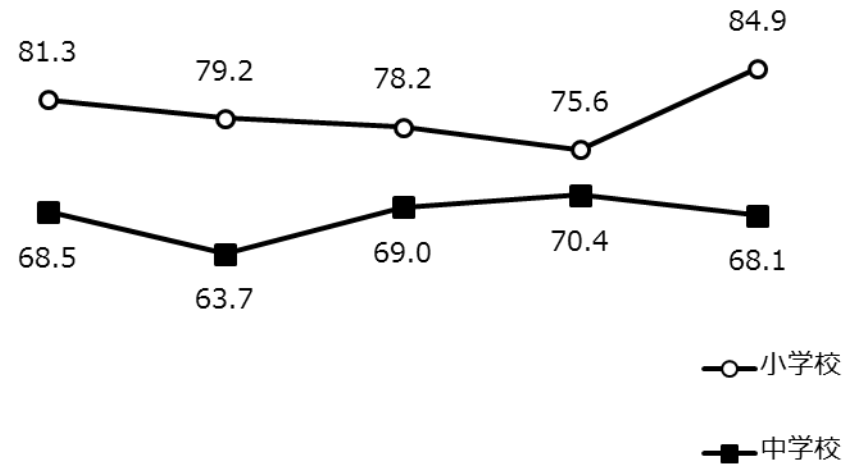
【現状と課題】

- 学校の授業が分かる児童生徒の割合について、小学校においてその割合が低下している。「分かった」「できた」と実感できる授業の充実を図る必要がある。
- 自ら進んで勉強しようとする意欲を高めるためには、主体的に学習を進めていくことができるよう教材や学習方法を工夫する必要がある。

学校の授業が分かる児童生徒の割合 (%)



自分から進んで勉強しようという気持ちがある児童生徒の割合 (%)



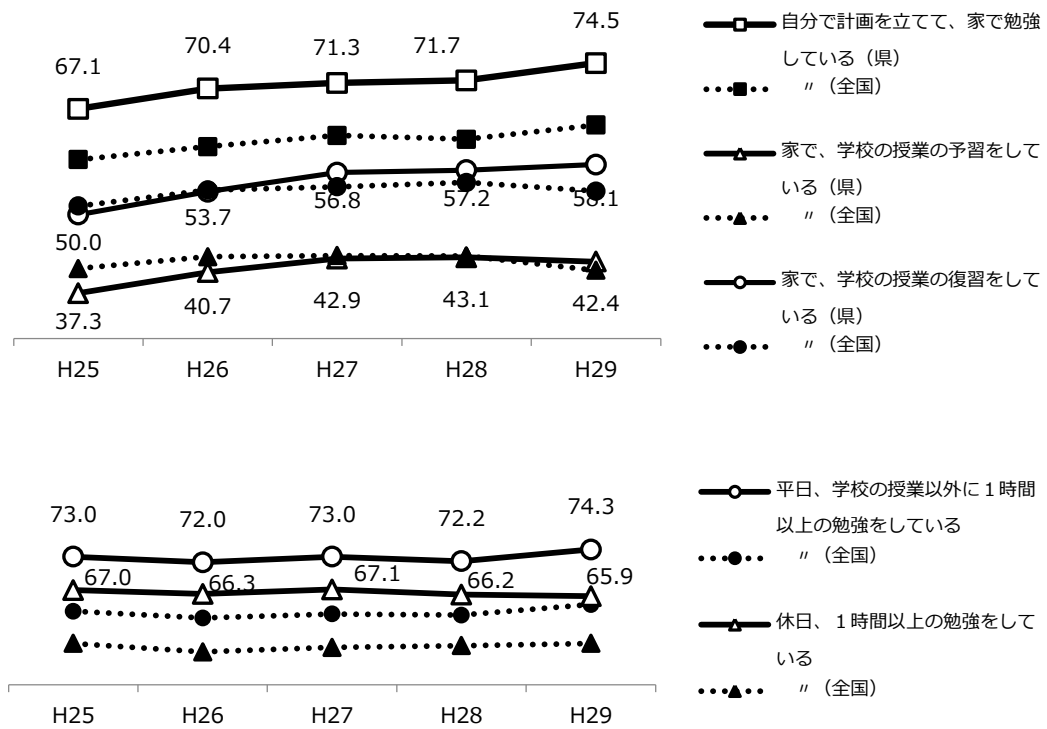
【出典】 岐阜県における児童生徒の学習状況調査（岐阜県教育委員会）
 小学校：小4・5年、中学校2年
 ※H22,23,25,29は未調査

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組③ 【学習状況】

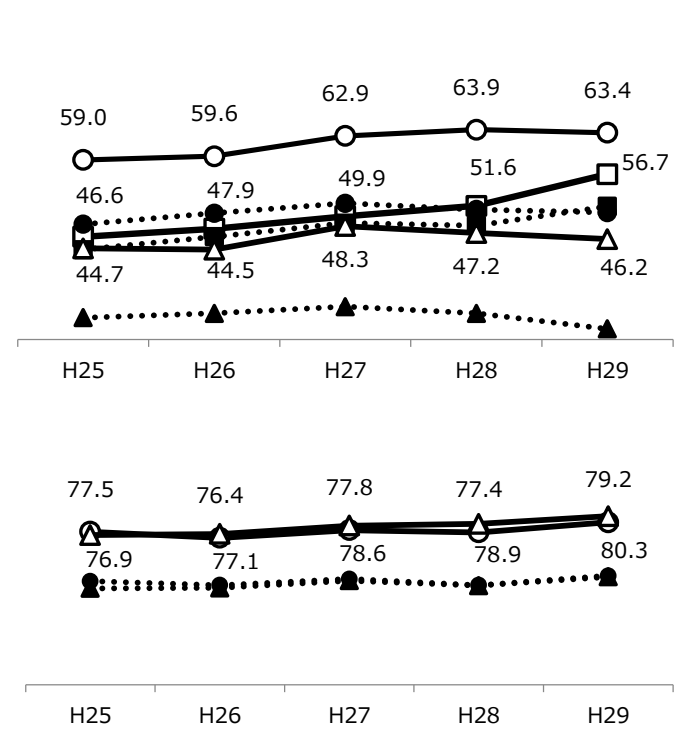
【現状と課題】

- 自分で計画を立てて家で勉強している児童生徒、家で学校の授業の復習をしている割合が増え、改善が見られる。
- 学校の授業以外に1時間以上学習している児童生徒の割合は、中学校においておおむね向上している。小学校においては、横ばいで推移している。

学習習慣の状況の推移【小学校】 (%)



学習習慣の状況の推移【中学校】 (%)



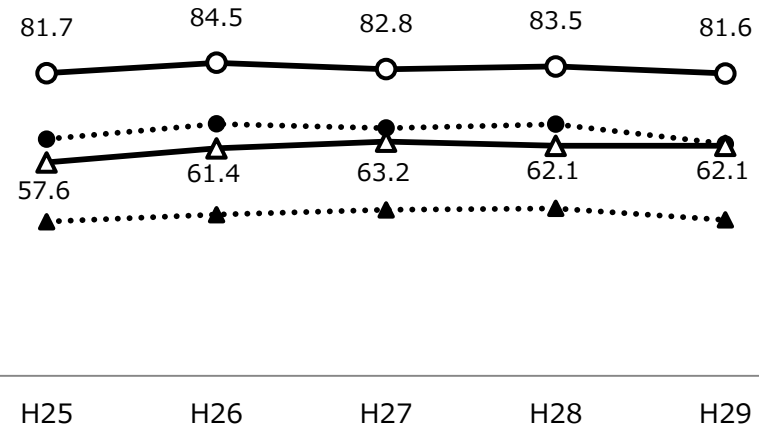
【出典】全国学力・学習状況調査
小学校：小6年、中学校3年

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組④【生活習慣】

【現状と課題】

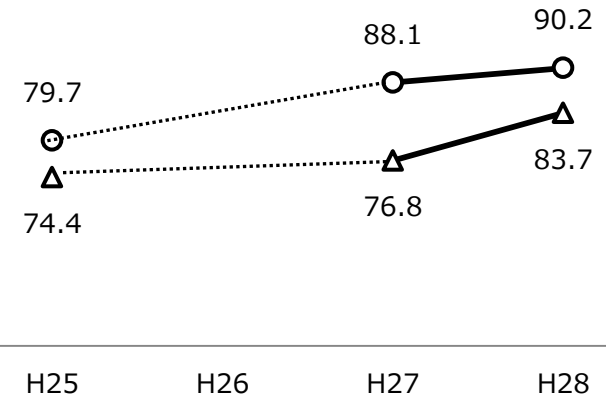
- 「地域の行事に参加する」が、全国平均より、小学校で19.0%、中学校で20.0%上回っている。本県の子どもたちが地域社会の一員としての自覚を持ち、地域に根差した人間関係が築かれている。
- 体験活動をしたことがある児童生徒の割合は向上しており、自ら自然環境に触れる姿勢を育めるよう、今後も取組を継続していく必要がある。

地域の行事に参加する



○— 小学校岐阜県 ●— 小学校全国
 ▲— 中学校岐阜県 ▲— 中学校全国

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある



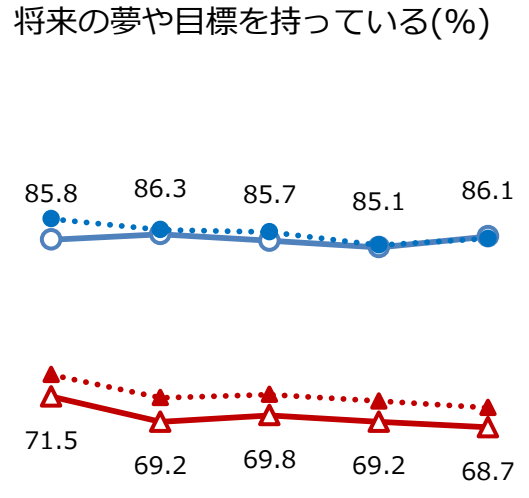
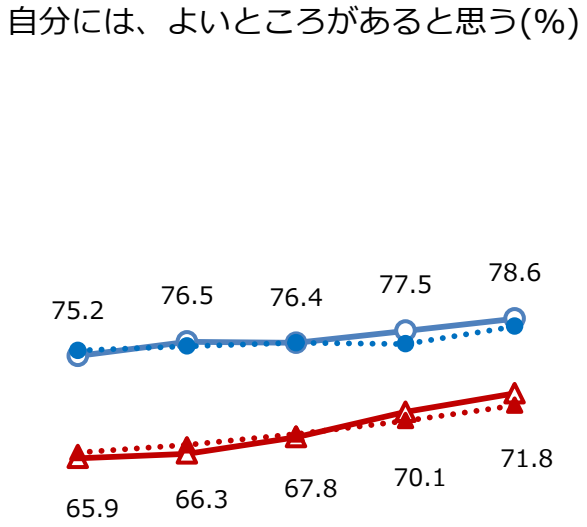
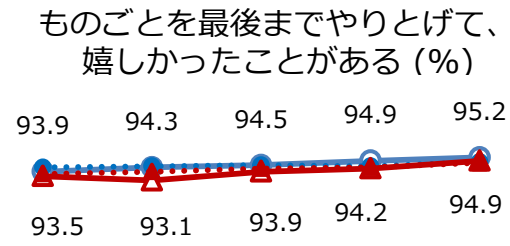
○— 小学校岐阜県 ▲— 中学校岐阜県

※H26 は調査項目なし

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組⑤【生活関連】

【現状と課題】

- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」は、横ばいで推移している。
- 「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」は、ほぼ全国の動きと同じである。ただし、「将来の夢や目標を持っている」は全国より低い傾向にある。
- 児童生徒の自尊感情や自己肯定感を高める必要がある。



H25 H26 H27 H28 H29

○ 小学校岐阜県 ● 小学校全国
 ▲ 中学校岐阜県 ▲ 中学校全国

H25 H26 H27 H28 H29

○ 小学校岐阜県 ● 小学校全国
 ▲ 中学校岐阜県 ▲ 中学校全国

H25 H26 H27 H28 H29

○ 小学校岐阜県 ● 小学校全国
 ▲ 中学校岐阜県 ▲ 中学校全国

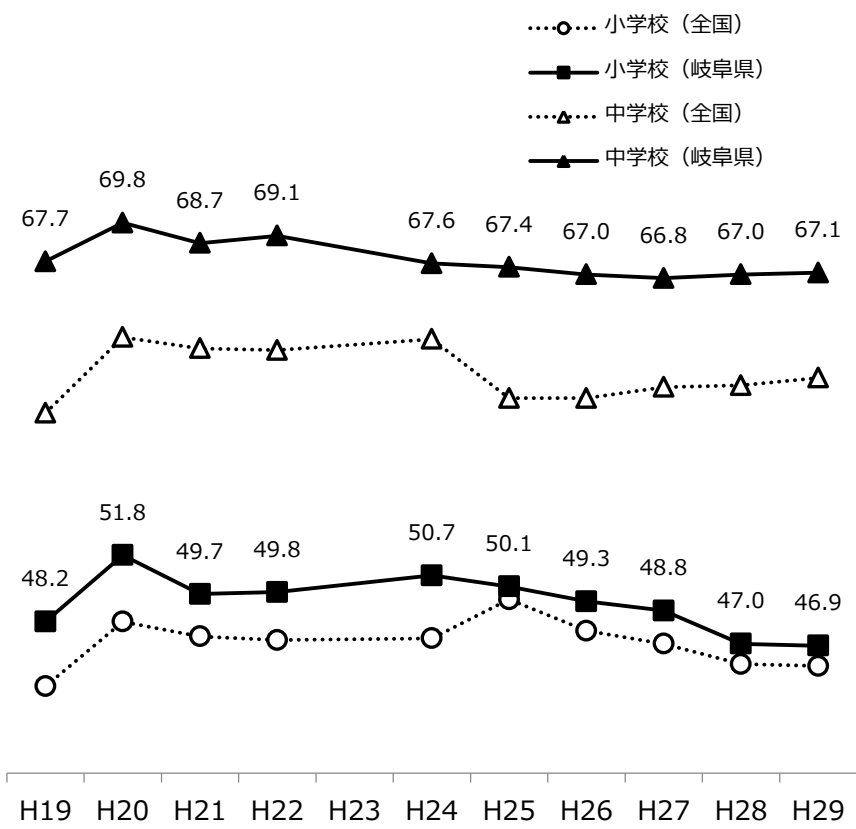
【出典】全国学力・学習状況調査

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組⑥【学校以外】

【現状と課題】

- 学習塾で学習している児童生徒の割合は、全国平均に比べて高い。
- 県内の学習塾事業所数は多く、児童生徒は学習塾で学習しやすい環境にある。

学習塾（家庭教師を含む）で学習している割合（％）



※H23は未実施

児童生徒千人当たりの学習塾事業所数

県名	小学校		中学校		高校	
	数	順位	数	順位	数	順位
富山	2.7	40	6.2	37	3.7	23
石川	3.0	35	5.1	42	3.1	36
福井	3.8	29	8.9	21	2.3	39
山梨	4.4	22	9.5	16	3.7	24
長野	3.4	32	7.7	32	4.3	14
岐阜	5.0	13	11.6	5	5.2	8
静岡	4.3	23	9.3	17	4.9	10
愛知	4.1	26	8.0	28	3.2	31
三重	4.6	19	10.8	12	3.5	26

※各学校種別該当事業所数（集団指導方式）は 平成27年特定サービス産業実態調査（経済産業省）。
 ※児童生徒数は H27年学校基本調査（文部科学省）。中等教育学校生徒数は中学校・高校に加算、高等学校生徒数は全日制・定時制の計。
 以上のデータにもとづき、県教育委員会で作成

【出典】全国学力・学習状況調査

【出典】特定サービス産業実態調査・学校基本調査より県教育委員会で作成

資料3 - 2 確かな学力を育成する義務教育段階の取組⑦【体力】

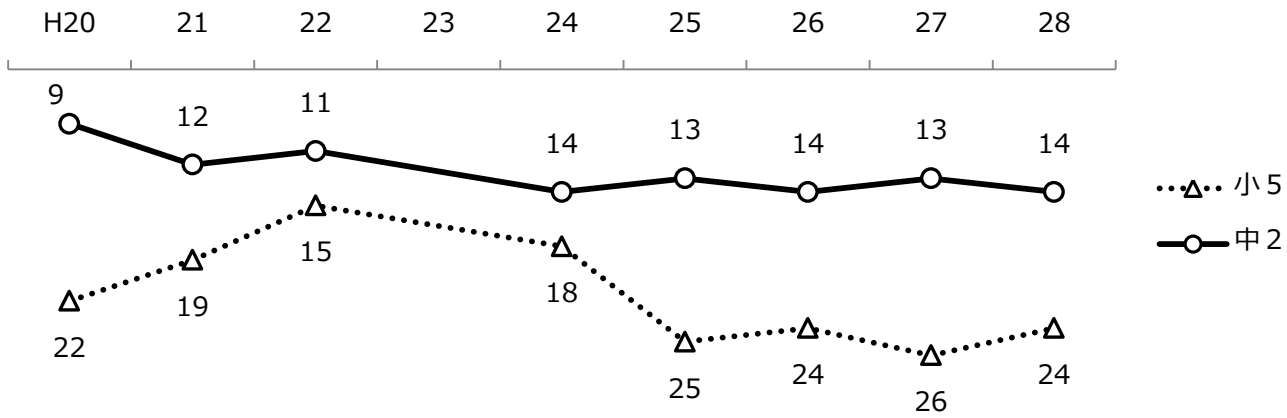
【現状と課題】

- 体力合計点は、ここ数年大きな変化は見られない。小学生の体力は全国平均を下回っている。
- 中学生の体力は持久走や上体起こしは全国平均を下回り、持久力や筋力に課題がある。

児童生徒の体力・運動能力



体力合計点平均の全国順位

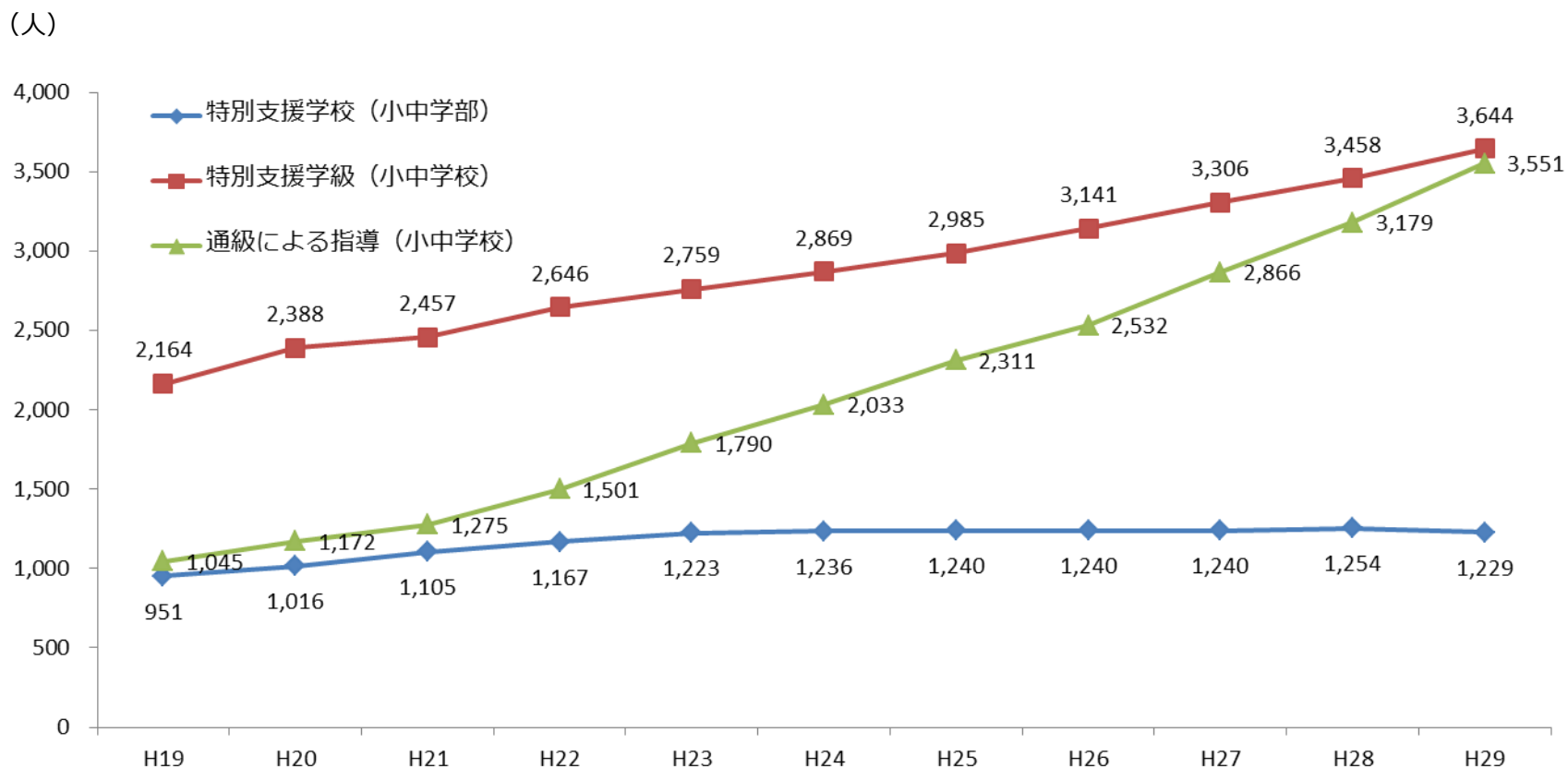


【出典】全国体力・運動能力、運動習慣等調査
 ※H23は未実施、H22・24は抽出調査

【現状と課題】

○義務教育段階において、特別支援学級や通級による指導を受けている児童生徒数は増加しており、さらなる環境整備に取り組む必要がある。

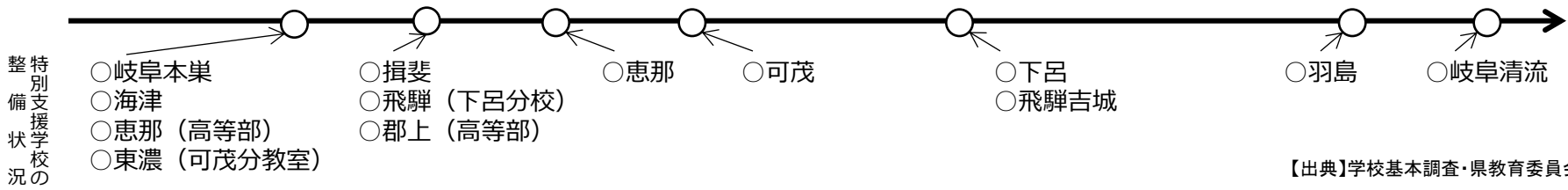
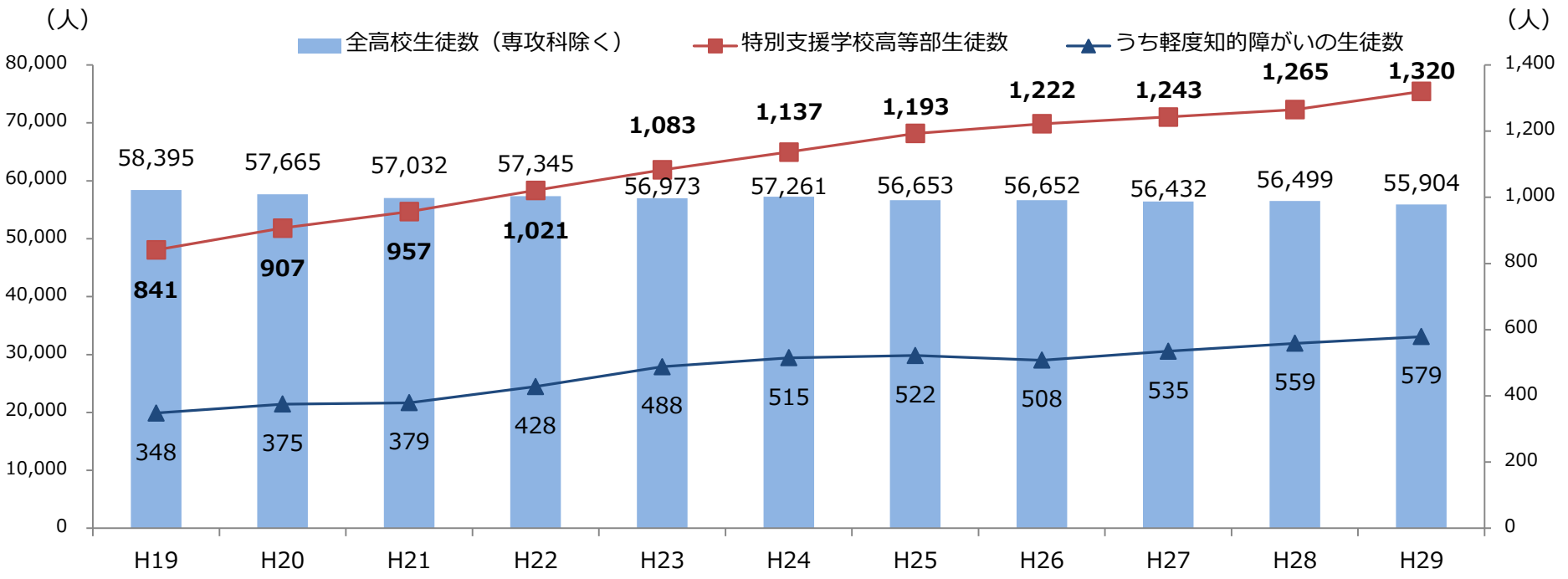
義務教育段階における障がいのある児童生徒数の推移



【現状と課題】

○特別支援学校高等部の生徒数は増加しており、特に軽度知的障がいのある生徒への就職支援に向けた高等特別支援学校機能の整備と高等特別支援学校の教育プログラム（専門教科、普通教科等）の研究開発が必要である。

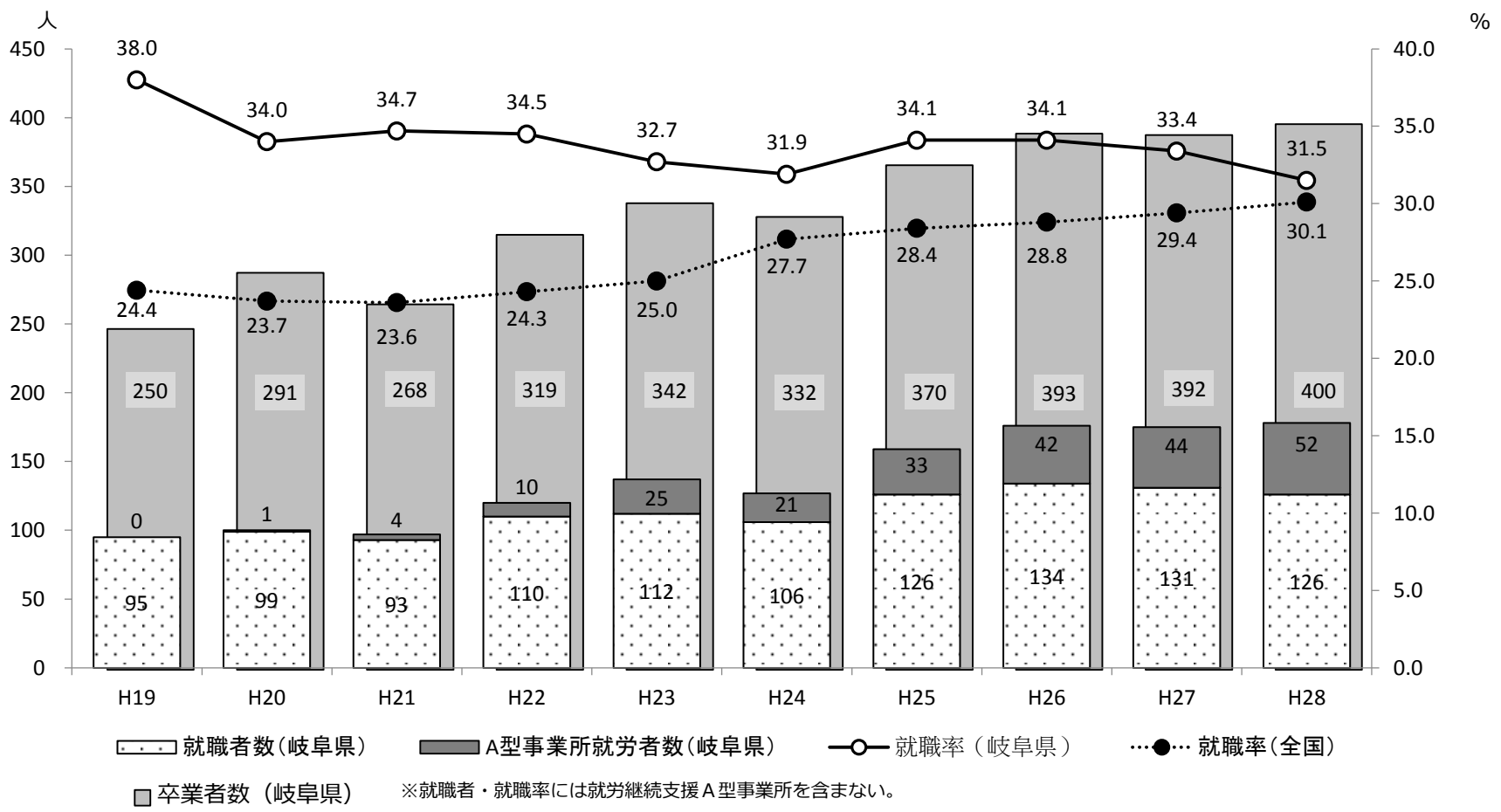
特別支援学校高等部の生徒数の推移



【現状と課題】

- 特別支援学校の就職者数（一般就労+就労継続支援 A 型事業所）は増加傾向であるが、雇用ニーズの多様化に伴う就労継続支援 A 型事業所への就職者の増加により就職率が横ばいとなっている。
- 従来の取組に加え、職業教育の内容を改善する等充実を図る必要がある。

特別支援学校高等部の卒業生の就職率

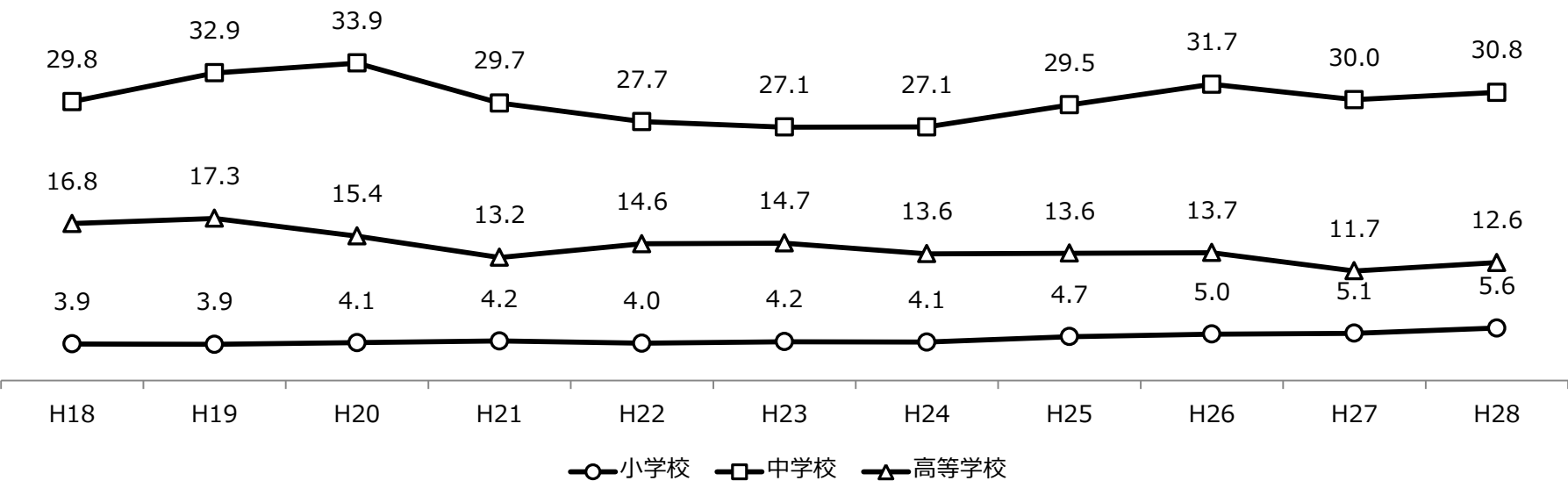


資料3 - 3 多様なニーズのある児童生徒への支援④ 【不登校】

【現状と課題】

- 1000人当たりの不登校児童生徒数は、小・中学校は増加。高等学校は減少傾向にある。
- 各学校・家庭・生徒個人によって状況が様々であるため、スクールカウンセラー等の専門家の活用など教育相談体制のさらなる強化を図り、個々のケースに細かく対応できる支援体制・連携体制・教育相談活動の充実が必要である。

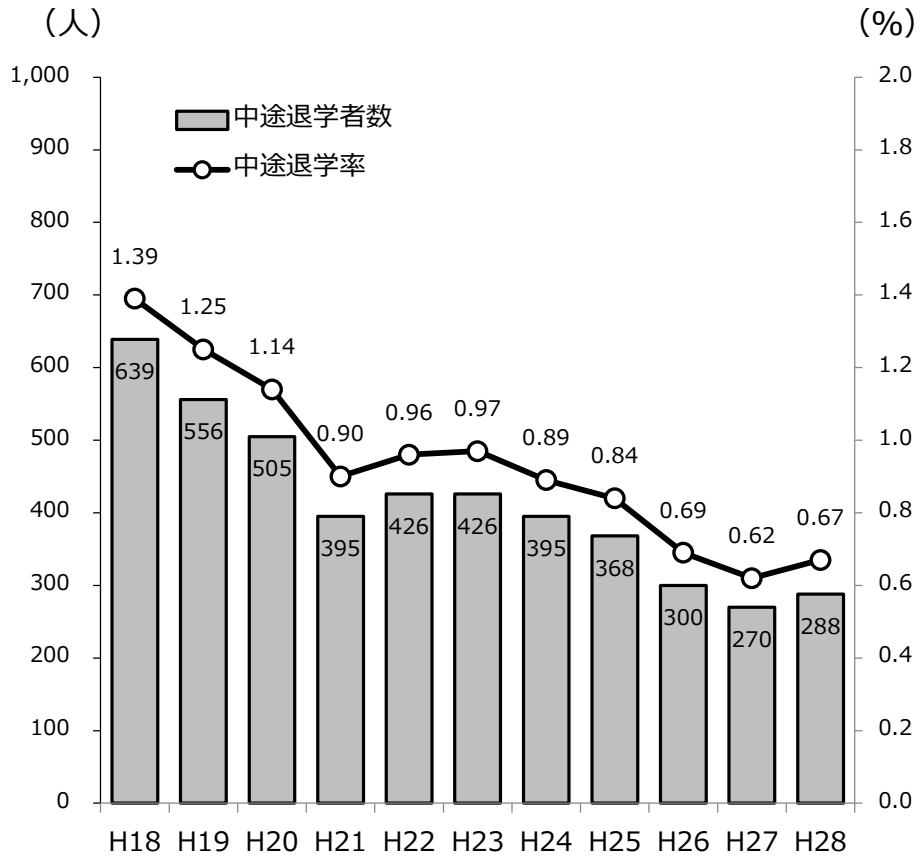
1,000人当たりの不登校児童生徒数（人）
 【公立小、中学校、全日制・定時制の高等学校】



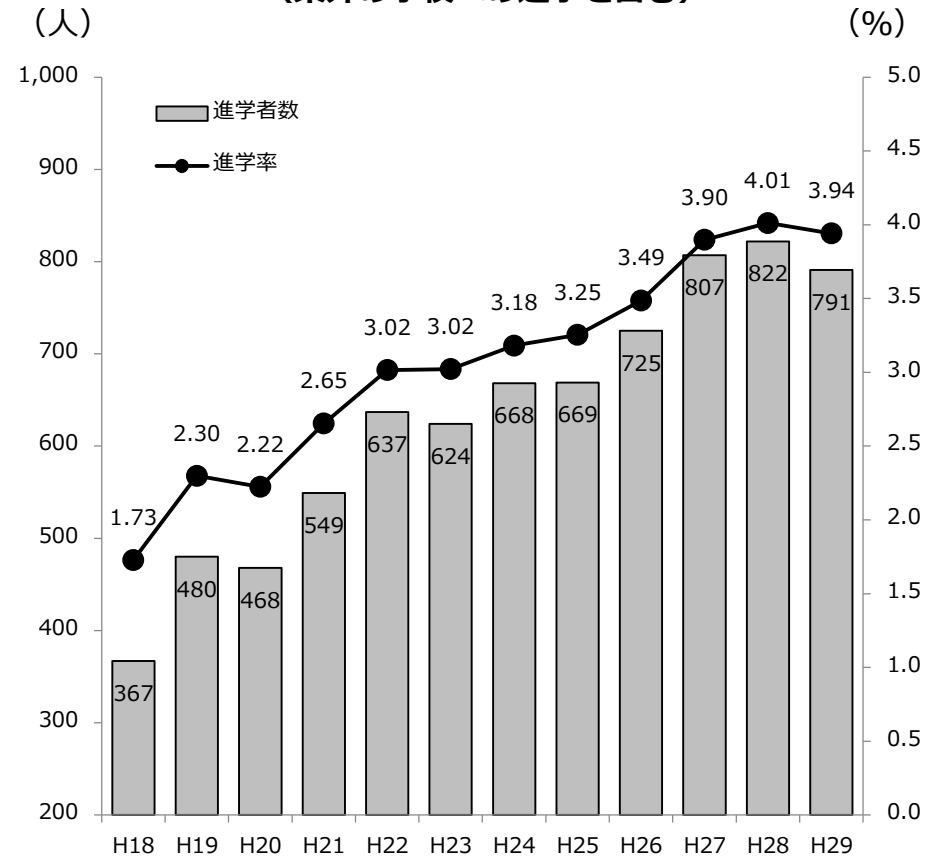
資料3 - 3 多様なニーズのある児童生徒への支援⑤ 【中途退学、通信制高校】

【現状と課題】
 ○全日制の中途退学者数はここ数年減少傾向にあるが、通信制高校への進学率は増加傾向にある。
 ○生徒個人の状況に対応できる支援体制の充実が必要である。

公立全日制高校の中途退学率の推移



通信制高校への進学者数と進学率の推移 (県外の学校への進学を含む)

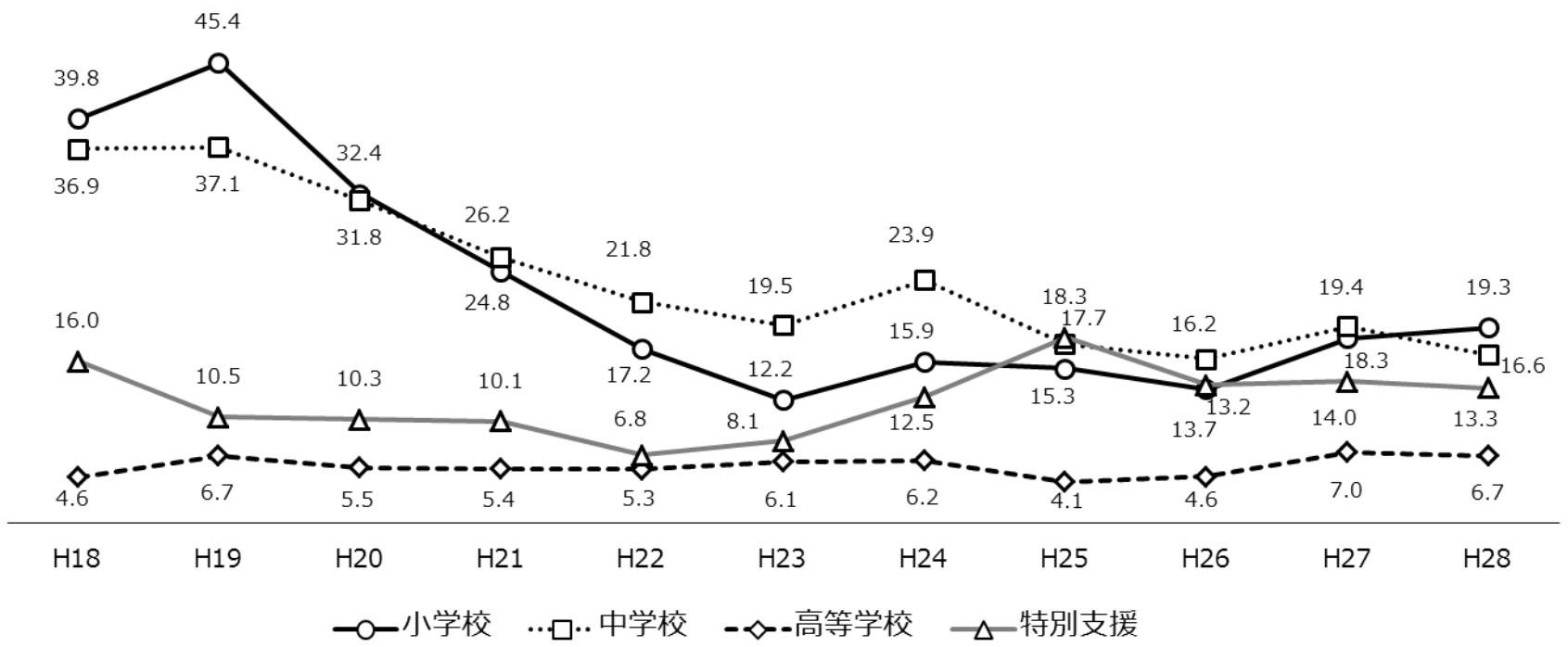


【出典】児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

【現状と課題】

- いじめの認知件数は、小学校で増加傾向にある。中・高・特別支援学校はH28は減少に転じた。
- 未然防止のため、小学校低学年よりスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用し、心理状況や親子関係、生活環境等問題行動の背景の改善を図る。

県内公立学校の1,000人当たりのいじめ認知件数（件）

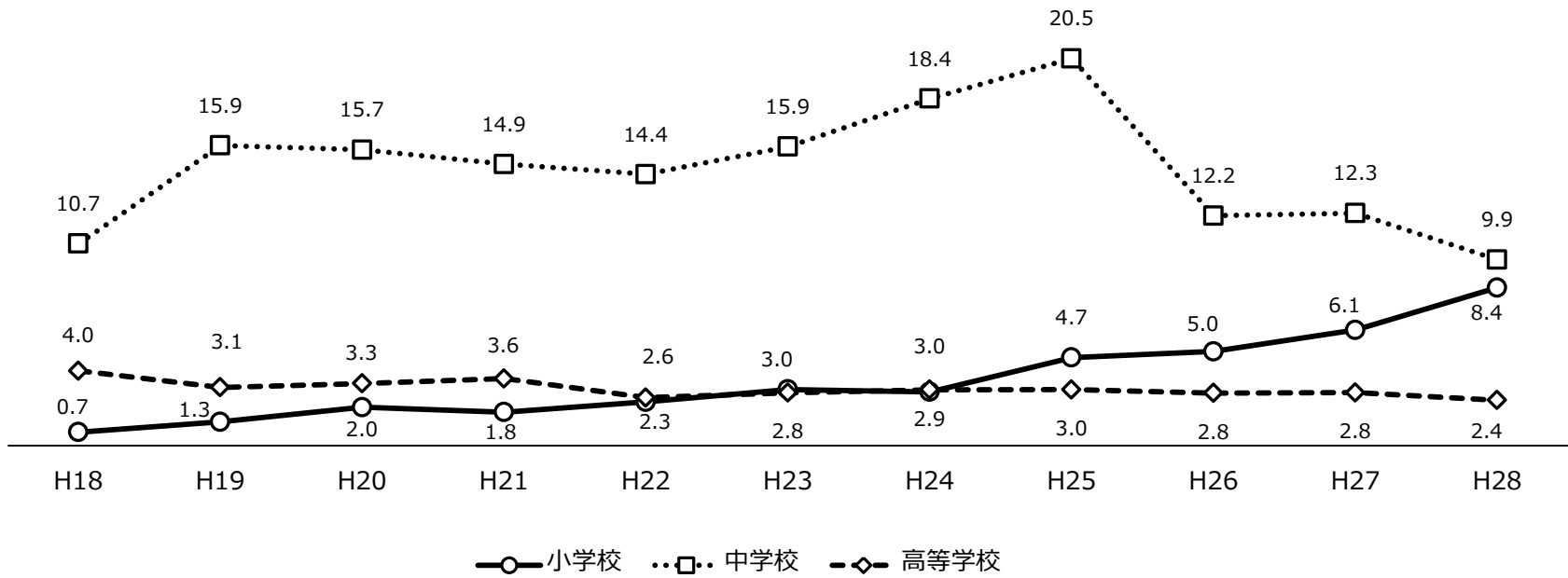


【出典】児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

【現状と課題】

- 暴力行為件数は、小学校で増加傾向。中学校はH25年以降減少に転じた。高等学校は減少傾向にある。
- 未然防止のため、暴力行為等防止支援員を学校へ派遣し、児童生徒に付き添うなどのケアにより、心の安定を図る必要がある。

県内公立学校の1,000人当たりの暴力行為件数（件）

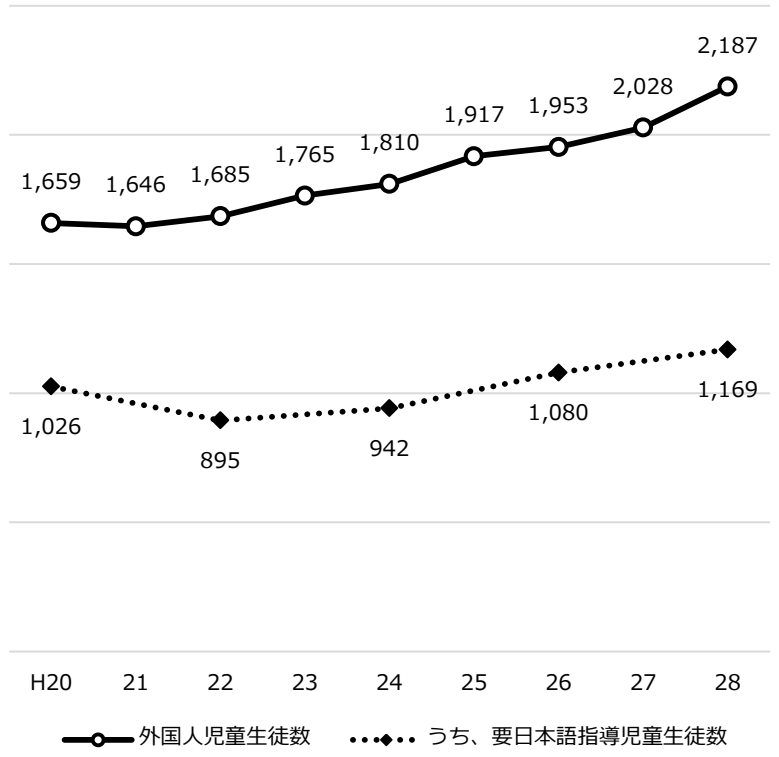


【出典】児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

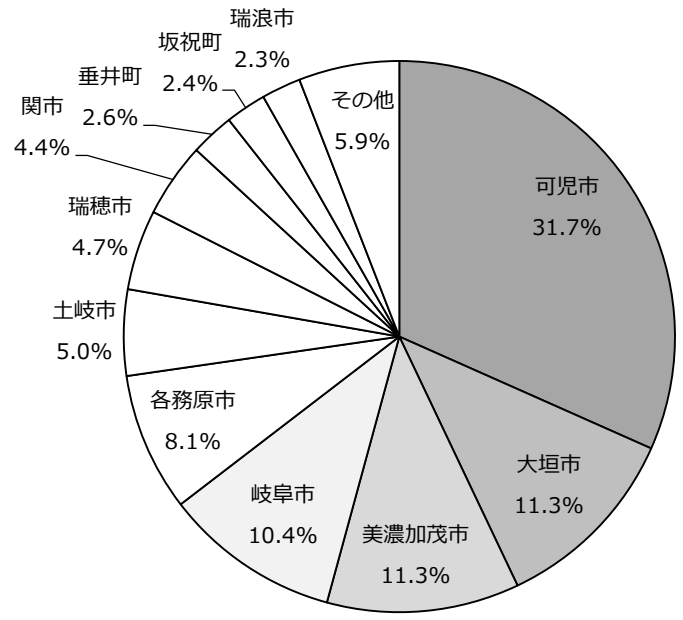
【現状と課題】

- 外国人児童生徒数は増加傾向であり、うち日本語の指導を要する児童生徒数も増えている。
- 外国人児童生徒の母語を使用できる外国人児童生徒適応指導員の配置や日本語指導教室を設置し、外国人児童生徒へのさらなる教育支援の充実を図る必要がある。

県内公立小中学校の外国人児童生徒数（人）



公立小中学校の要日本語指導児童生徒の集住市町（%）
＜H28年度：計1,169人＞

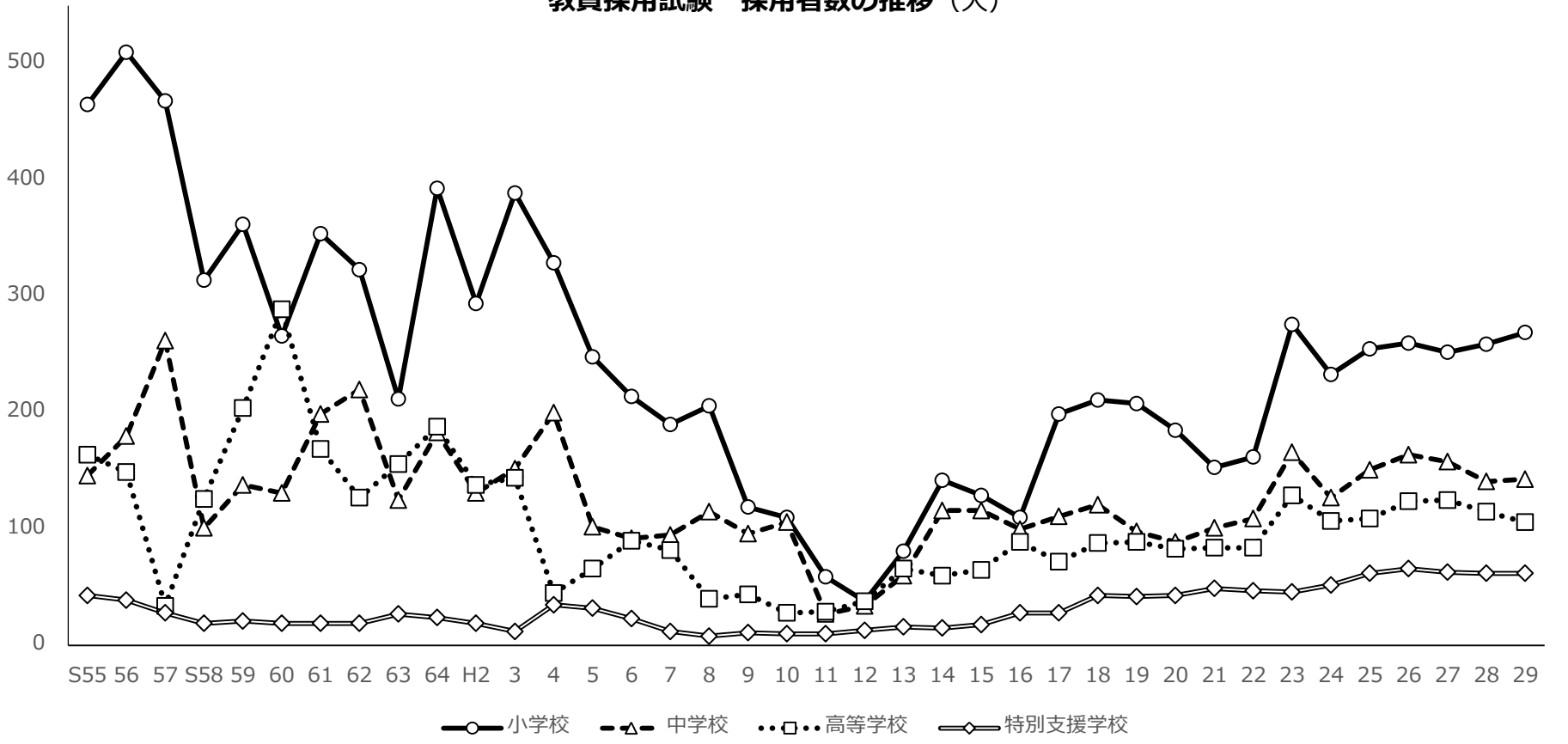


【出典】 学校基本調査、日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査

【現状と課題】

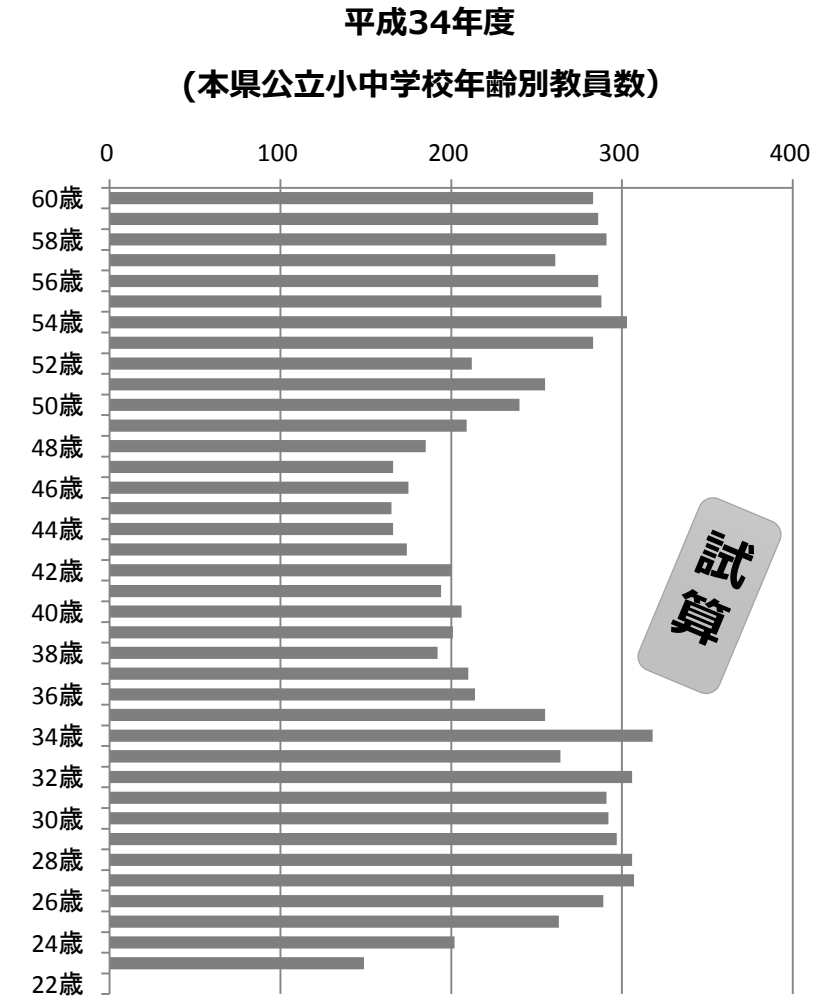
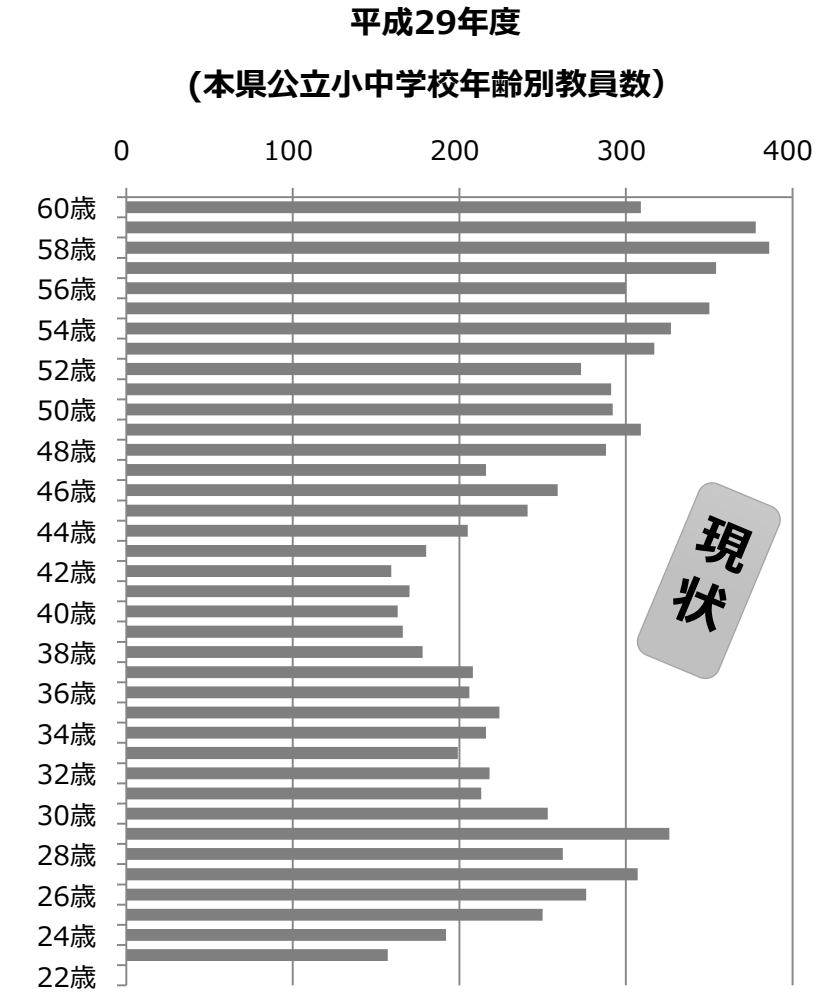
- 今後、多くのベテラン教員が退職していくことから、若手教員の資質能力向上に係る研修・中堅教員を対象とした早い段階からの管理職養成・再任用職員の活用が必要である。
- 教員採用数が増加していることから、さらなる選考内容・広報の工夫改善を行うとともに、岐阜県の教員になろうとする意欲を高めるための新しい取組を検討する必要がある。

教員採用試験 採用者数の推移 (人)



【出典】 県教育委員会調査

資料3 - 4 教員の資質向上と勤務環境の改革②【参考：教員数の試算】



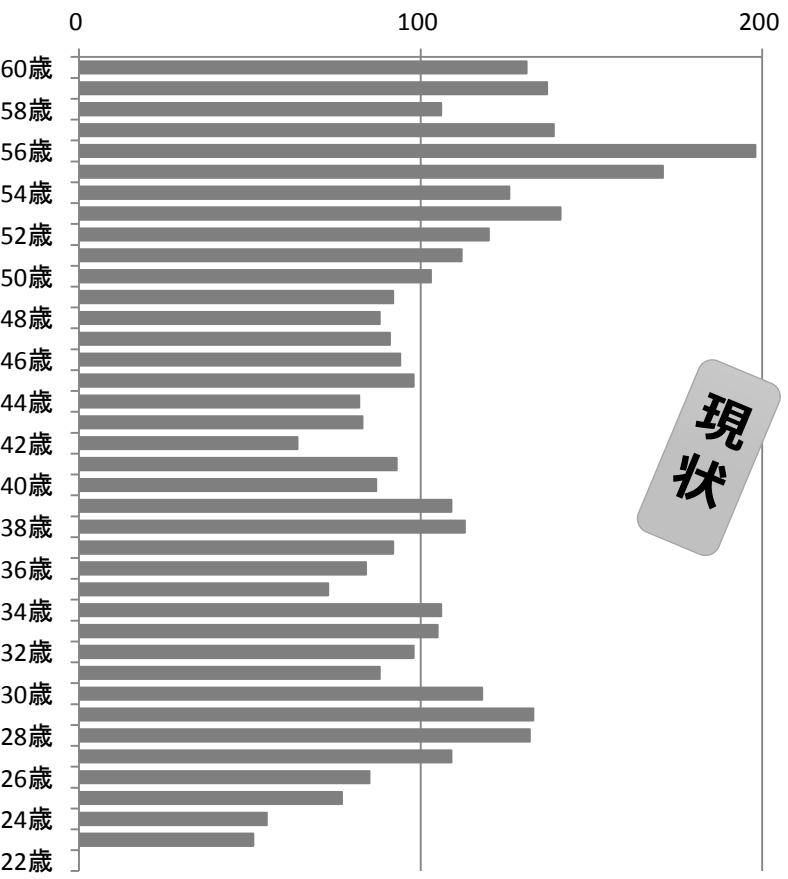
- * 新規採用者数は、採用計画に基づく
- * 新規採用者の年齢構成は、平成29年度採用者の年齢構成をもとに算出
- * 退職者数は、過去の退職割合から算出

【出典】 県教育委員会調査

資料3 - 4 教員の資質向上と勤務環境の改革②【参考：教員数の試算】

平成29年度

(本県公立高校・特別支援学校年齢別教員数)

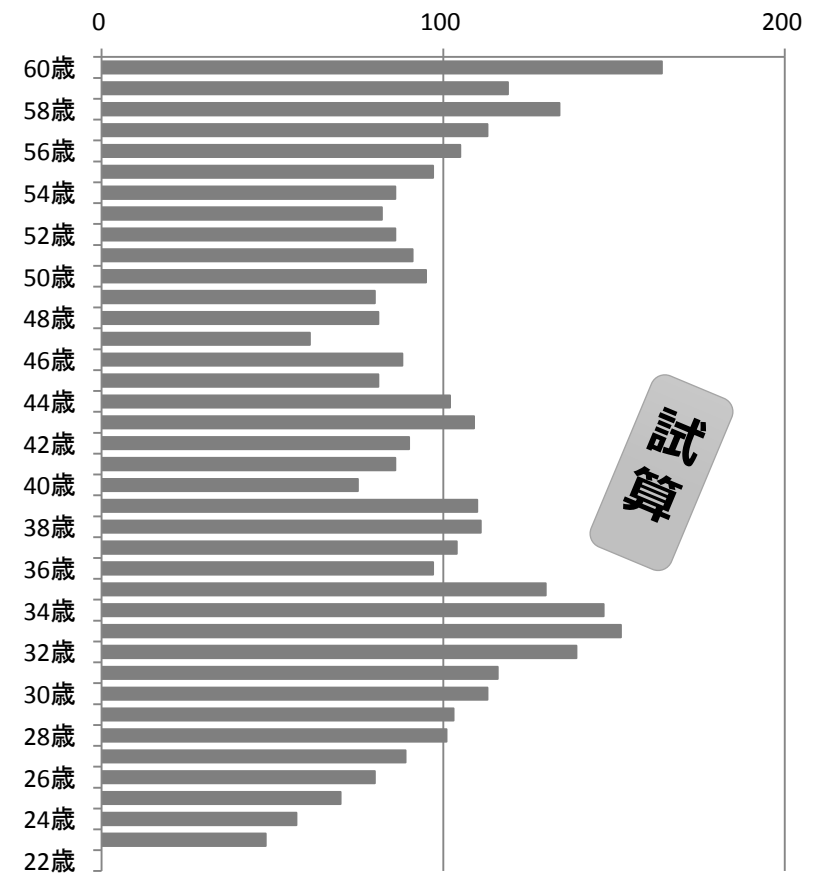


5年後



平成34年度

(本県公立高校・特別支援学校年齢別教員数)

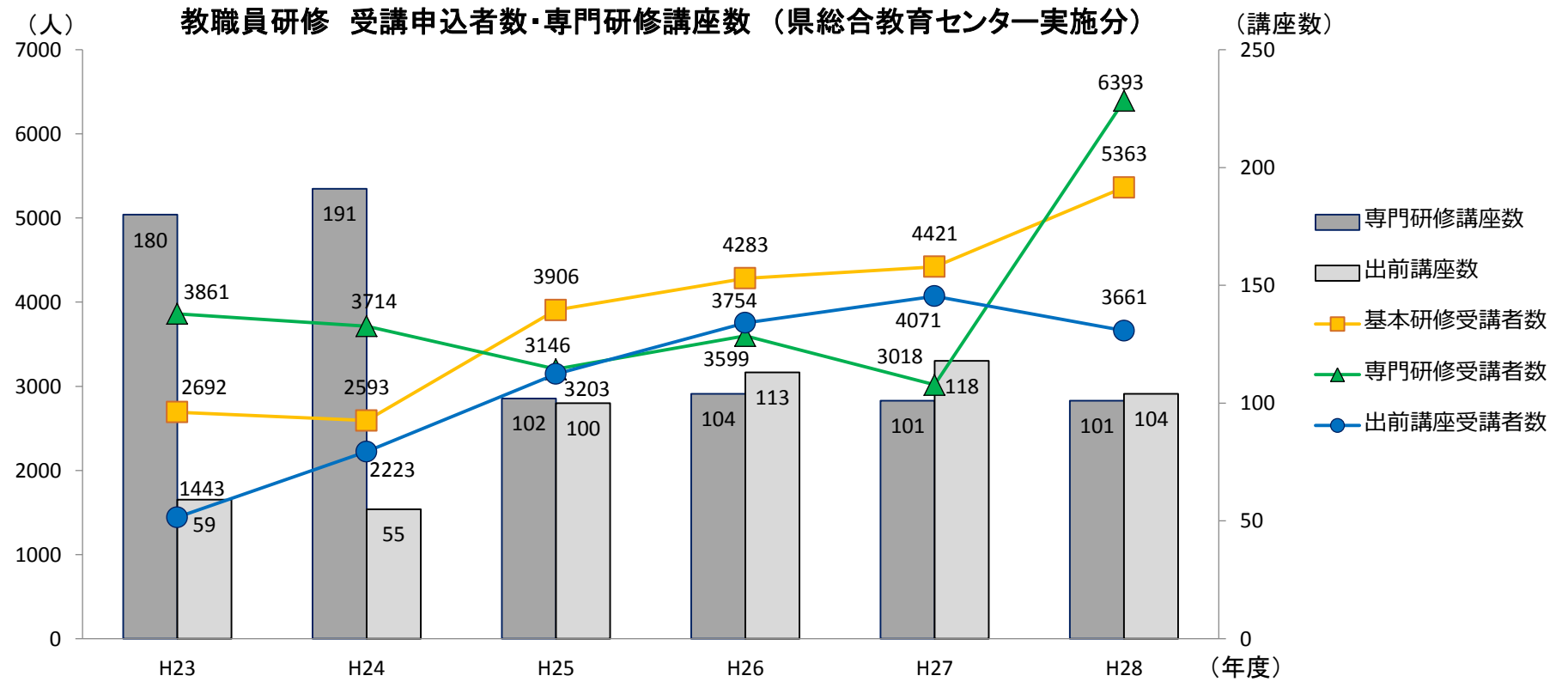


- * 新規採用者数は、採用計画に基づく
- * 新規採用者の年齢構成は、平成29年度採用者の年齢構成をもとに算出
- * 退職者数は、過去の退職割合から算出

【出典】 県教育委員会調査

【現状と課題】

- 教職員研修の受講率は向上している。県総合教育センターの支援による出前講座数は、継続して第2次教育ビジョンの目標値（100件）を超える出前講座の要請がある。
- 教員研修については、中堅教員が少ない中で、今後増加が予想される経験年数の少ない教員の資質能力を効果的に向上させる研修の工夫改善が必要である。



【現状と課題】

- 正確な勤務時間の把握のための具体的な取組みとして、平成29年10月から、休日も含めた出勤及び退勤時刻の記録を開始。
- 実態を正確に把握し、勤務環境の改革を実施する必要がある。

岐阜県立学校における教職員の勤務の実態（平成29年10月）

	時間外勤務時間の平均 (時間/月)	記録対象 教員系職 員数	時間外勤務の時間の分布 (割合 : %)				
			0時間超 ~40以下	40時間超 ~60以下	60時間超 ~80以下	80時間超 ~100以下	100時間超
高等学校	66時間41分	3,391人	796人	616人	639人	536人	804人
		100.0 %	23.5 %	18.2 %	18.8 %	15.8 %	23.7 %
特別支援学校	38時間55分	1,439人	784人	453人	161人	29人	12人
		100.0 %	54.5 %	31.5 %	11.2 %	2.0 %	0.8 %
計	60時間29分	4,830人	1,580人	1,069人	800人	565人	816人
		100.0 %	32.7 %	22.1 %	16.6 %	11.7 %	16.9 %

【現状と課題】

- 老朽化が進んでいる校舎等は、予防保全の考え方に基づいた定期的な改修による建物の長寿命化と、改築とを組み合わせ対応していく必要がある。
- 校舎等の改修・改築にあたっては、少子化の進展、少人数・習熟度授業の推進などによる適正な校舎規模・機能についての検討や、財政負担の平準化への配慮が必要である。

県立学校の校舎等の建築年代 (延面積200㎡の校舎等) H29.4.1現在

建築年		昭和30年代	昭和40年代	昭和50年代	昭和60年以降	合 計
県立 高校 63校	棟 数	16	83	125	150	374
	校 舎	16	68	74	67	225
	体育館等	0	15	51	83	149
	割 合	4.3%	22.2%	33.4%	40.1%	100%
特支 20校	棟 数	0	6	36	36	78
	校 舎	0	5	23	24	52
	体育館等	0	1	13	12	26
	割 合	0.0%	7.7%	46.2%	46.2%	100%
合計	棟 数	16	89	161	186	452
	割 合	3.5%	19.7%	35.6%	41.2%	100%

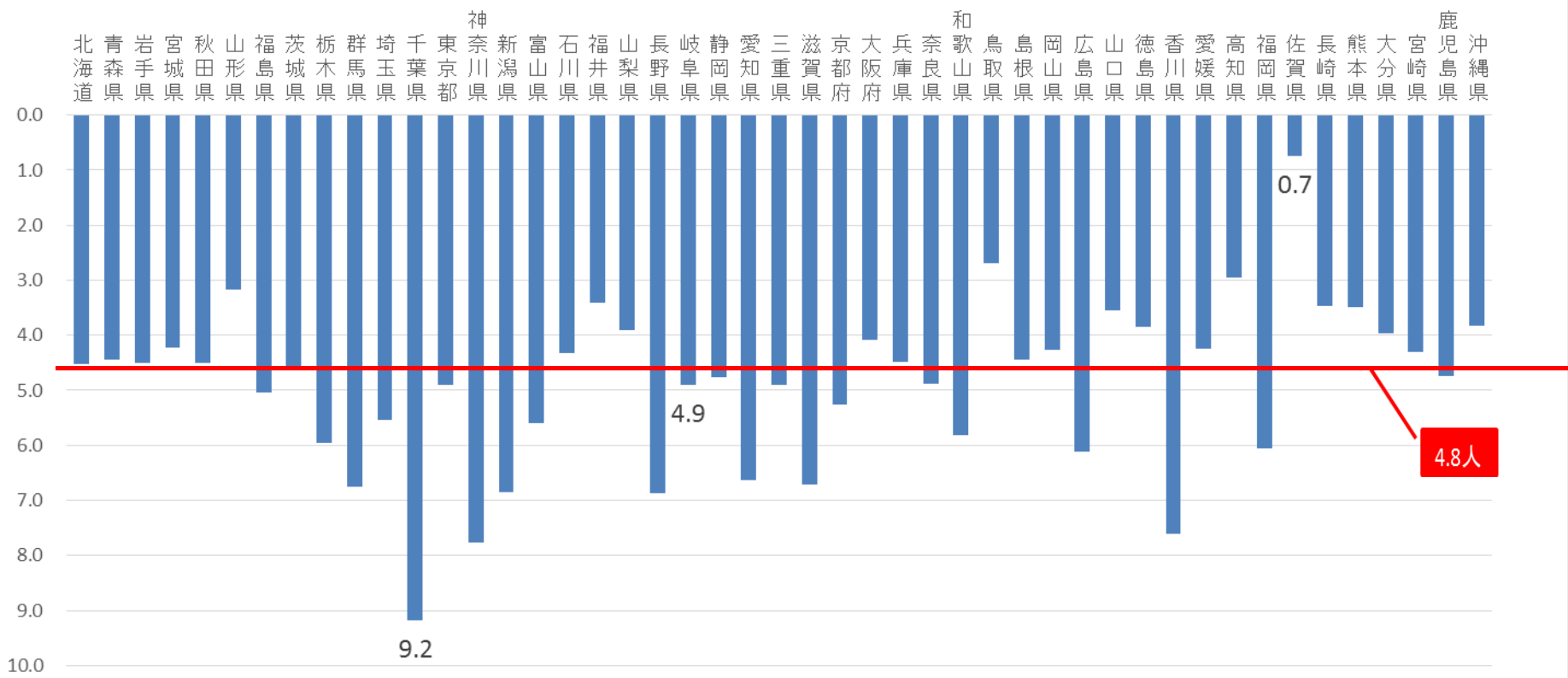
【現状と課題】

○高等学校のICT環境が、国の第2期教育振興基本計画（H25～29）で目標とされる水準を下回っているものがあるため計画的に整備していく必要がある。

・教育用PC1台当たりの児童生徒数	4.9人	(目標: 3.6人)
・普通教室の電子黒板の整備	0.051台	(目標: 1学級当たり1台)
・普通教室の無線LAN整備率 (超高速インターネット接続率)	8.0%	(目標: 100%)
	100%	(目標: 100%)

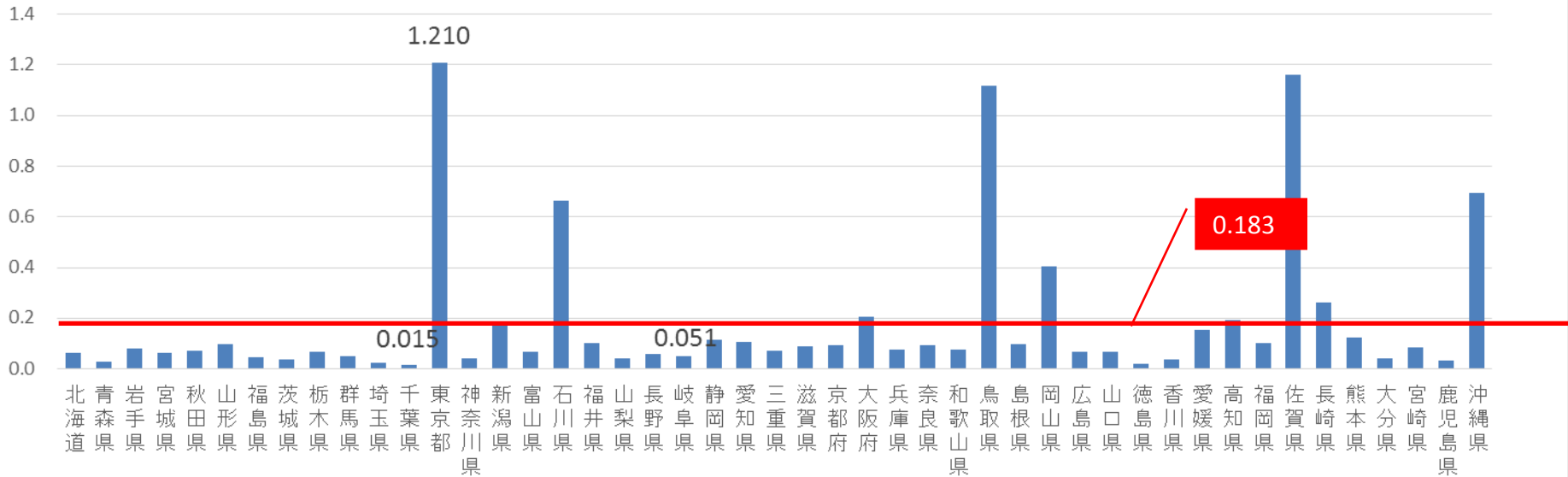
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数(高等学校)

平成29年3月1日現在



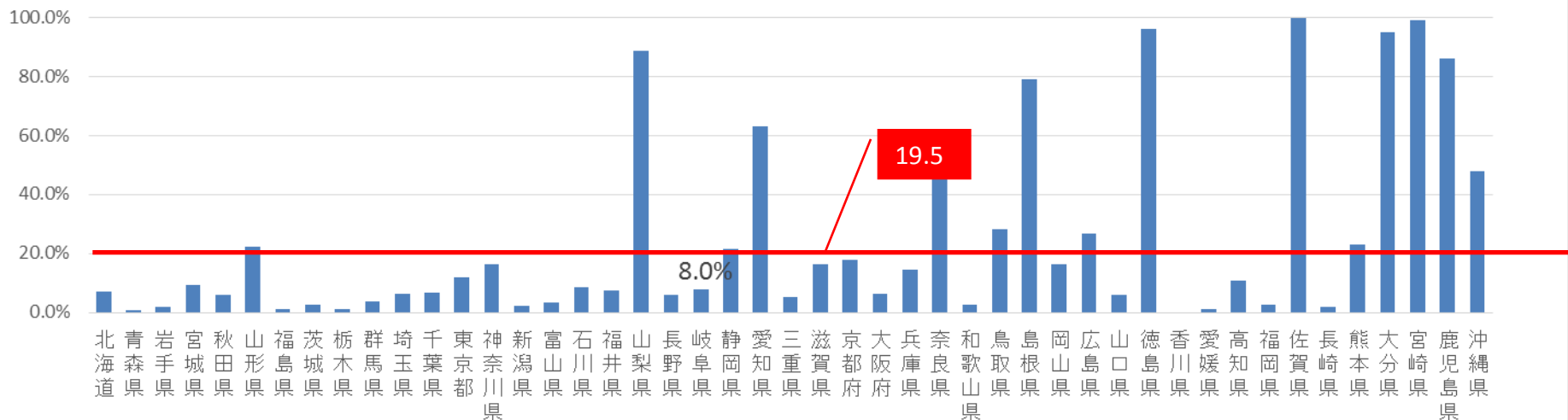
普通教室1教室当たりの電子黒板整備数(高等学校)

平成29年3月1日現在



普通教室の無線LAN整備率(高等学校)

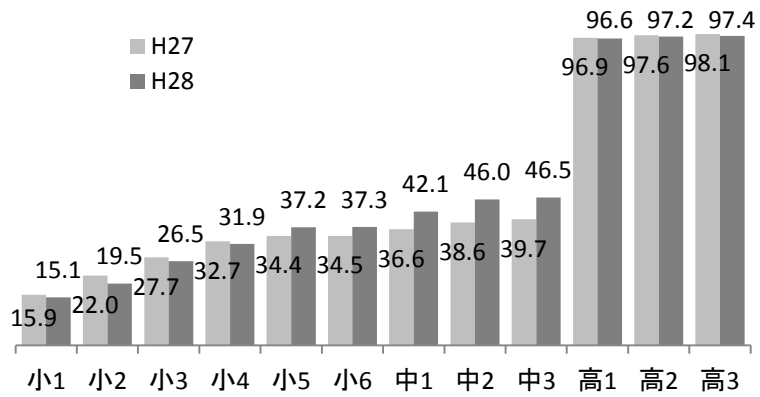
平成29年3月1日現在



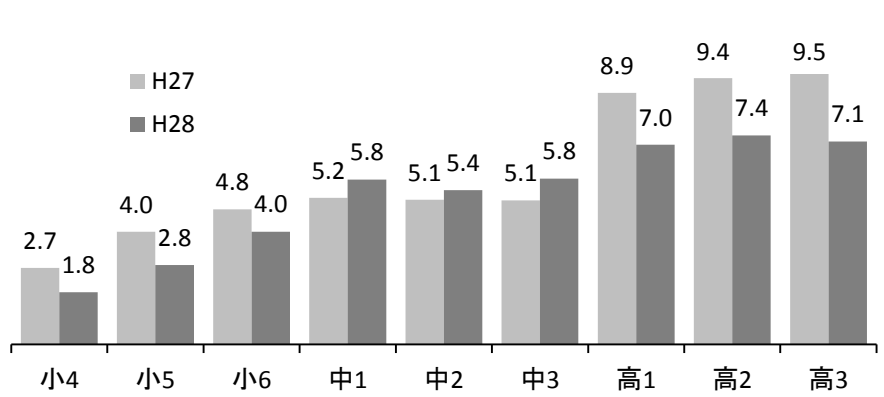
【現状と課題】

- 携帯電話やスマートフォン等の普及に伴い、児童生徒がトラブルに巻き込まれたりする危険性が増加している。
- 被害者としてだけでなく、加害者となるケースも十分考慮し、子どもたちに確実に情報モラルを身に付けさせることに加え、関係機関との情報共有等により、対応の強化を図る必要がある。

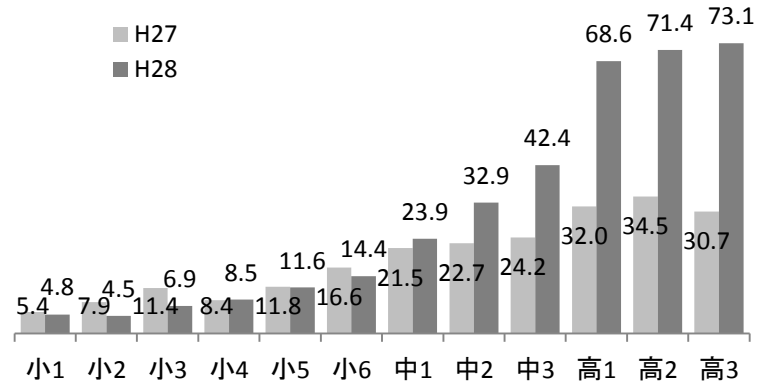
【児童生徒の携帯電話（スマートフォンを含む）保有率】



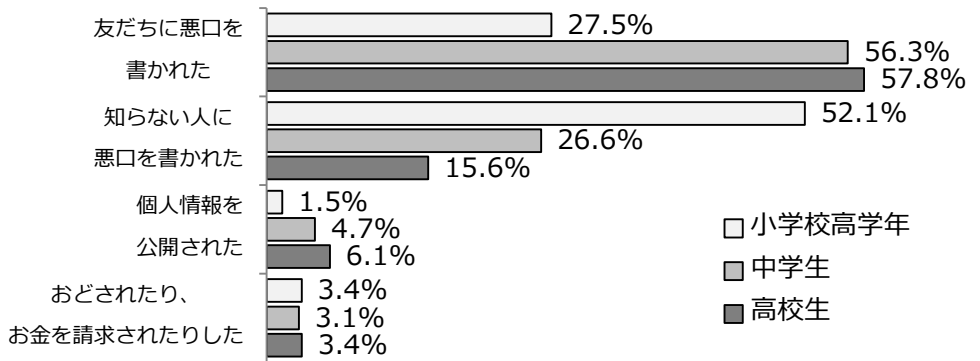
【掲示板等の書き込みで嫌な思いをした生徒の割合】



【SNSに書き込みをしたことがある割合】



【掲示板等の書き込みで嫌な思いをした主な原因（H28年）】



【現状と課題】

○現在でも数多くの事業で連携を行っている。さらなる連携を強めていく必要がある。

○外国人高校生等を対象としたキャリア教育(清流の国づくり推進課)

- ・外国人の先輩社員からのアドバイスやファイナンシャルプランナーによる働き方の紹介、インターンシップを実施。

○清流の国ぎふ環境学習の推進(環境企画課)

- ・環境学習を行う学校に対して、環境教育推進員を派遣し、助言や講義を実施。
- ・ぎふ清流未来の会議を開催し、子どもたちの相互理解を深めるとともに、森・里・川・海のつながりを踏まえた交流を促進。

○岐阜県いじめによる重大事態再調査委員会(私学振興・青少年課)

- ・学校の設置者又は学校が実施した「いじめによる重大事態」の調査結果を調査審議する。

○各職業の魅力PR等(各部)

- ・県内への就職を働きかけるため、教員や生徒に対し、各部局で職場体験やイベントの開催等を実施。